

新 徳 集 脩





平成30年10月25日撮影

目 次

1	ご挨拶	1
2	霧島整形外科のめざすもの	2
3	ご寄稿 鹿児島大学病院 整形外科教授 谷口昇先生	3
4	人材のエネルギーは足し算でなく掛け算	5
5	新病院をめざして ―この一年―	9
6	新整形外科部長挨拶	11
7	新看護部長挨拶	13
8	新薬剤部長挨拶	15
9	新人自己紹介	17
10	研究会主催	25
11	受賞報告	27
12	自己血輸血看護師認定	29
13	海外研修 KEIDEL bad 報告	31
14	鹿児島ユナイテッド FC スポンサーシップ	35
15	この一年	37
16	太公望	39
17	診療実績 外来統計	41
	手術統計	44
18	業績 論文	45
19	各部門報告 (1) 看護部 外来だより	47
	病棟だより	48
	手術室だより	49
	(2) リハビリテーション部 リハビリテーション部だより	51
	(3) 放射線部 放射線部だより	53
	(4) 事務部 事務部だより	57
	(5) 総務課 総務課だより	59

(6) 栄養管理部

栄養管理部だより	61
----------	----

20 活動報告

えにわ整形外科病院研修	63
名古屋第二赤十字病院研修	66
船橋整形外科病院・クリニック研修	69
看護必要度研修	72
プール教室	73
ヘルスケア教室	75
霧島どんサポートの会	77
スポーツ教室	78
霧島スポーツまつり 2018	79
英会話教室	80
院内ギャラリー	81
実習生受け入れ報告	82
潮友会	83
トレーナー活動報告 - 高校野球 -	84
トレーナー活動報告 - ボート -	86
霧島国分夏祭り総踊り	91

21 学会・研修会参加	93
--------------------	----

22 メディア掲載	107
------------------	-----

23 編集後記	
----------------	--

ご 挨拶

今年はNHK大河ドラマが、鈴木亮平さん主演の“西郷どん”ということで、鹿児島では大いに盛り上がった一年でした。一方で、台風や水害、大きな地震にも相次いで見舞われ、日本列島は災害の一年でもありました。皆様方は、無事お過ごしでしたでしょうか。

私ども霧島整形外科も大きな変化に富んだ一年でした。

まず、鹿児島県整形外科の本丸である鹿児島大学整形外科教授に谷口 昇先生が赴任されたことです。

一度失った信用・実績を取り戻すことはとても難しいことですが、明治維新を切り開いた薩摩義士の誠心を持つ谷口先生には多くの若人が募り、きっと教室を再び蘇らせてくれると確信しています。今後は、同門の一員として And so, my fellow Americans: ask not what your country can do for you -- ask what you can do for your country. の精神で応援し続けたいと思います。

当院も平成31年2月より新病院として生まれ変わります。これに先立ち村角恭一先生、田邊 史先生が常勤の整形外科専門医として仲間に加わってくれました。さらに、病院化に必須のポジションである看護部長に深川俊子さん、薬剤師に改元絵美香さんが赴任されました。新病棟を支えるために看護師を始めとする多くの新スタッフも集まってくれました。しかしいざ病院化となると、思ってもいなかった膨大な作業があり、多くの職員の皆さんの力が必要でした。これまでの4年間で形作られた当院の医療に対するスタッフの共感が、チームとしての思いとなり、新しい病院を創る原動力になっていると実感します。

今後も、職員で力を合わせて努力してまいります。皆様方の、変わらぬご指導・ご支援をお願い申し上げます。



医療法人術徳会

理事長 井 尻 幸 成

医療法人術徳会のめざすもの

事務長 坂元 隆文

開業時には19名の職員でスタートした霧島整形外科は、4年を迎えるにあたり職員は常勤医師、看護部長、薬剤師、各部署の新人職員を新たに迎え80名を超えるようになりました。更に来年2月には霧島整形外科病院と霧島整形外科クリニックを設立することとなり更に職人の増員が見込まれます。

組織としては「医局」、「看護部」、「薬剤部」、「リハビリテーション部」、「放射線部」、「栄養管理部」、「事務部」、「総務部」、「清掃・営繕部」に分れ、相互の関連を保ちながら独立した部署になります。

めざすものとしては、法人の理念である「技術に徳を兼ね備えた医療を提供し地域の人々の健康に貢献」を基にした当院の目標である「地域一の整形外科専門医療を目指す」を掲げて各個人が地域医療に貢献できるような人格形成また専門性を確立するためには日々の切磋琢磨を心がけて行きます。

まだ発展途中の組織ですので新しい知識、技能、技術を習得しながら組織に取り入れ自分達の文化として発展させて行きます。



御
寄
稿

ご挨拶

鹿児島大学病院
整形外科教授 谷口 昇

今年4月より鹿児島大学大学院医歯学総合研究科整形外科学教授に就任し、霧島整形外科には月2回ほど外勤でお邪魔致しておりますので、一言ご挨拶申し上げます。



私と井尻幸成院長との出会いは、平成11年に遡ります。その年の4月に麻酔科より整形外科に入局した私は、平成12年1月より、脊椎班の井尻グループに配属されましたが、ちょうど先代教授小宮節郎先生が赴任された時期でもありました。今後の教室は基礎研究に力を入れていくだろうから先生も是非大学院に入るべき、と院長に勧めて頂き大学院に入学した訳ですが、この選択がその後の自分の人生に大きな影響を与えることになるとは当時は知る由もありませんでした。当初は基礎研究に興味が無かった私ですが、次第に自然科学の美しさや崇高さ、奥深さに触れてのめり込んでいくこととなります。米国留学の幸運に恵まれ、やがては研究所の正職員にまでなりましたが、それも元々は井尻先生によるご助言がきっかけでありました。先生自身もその後名門ハーバード大学に留学されましたので、米国でも交流がありました。私も家内と一緒にサンディエゴからボストンを訪問し、水を得た魚のように研究に没頭される先生を拝見して、非常に刺激を受けたのを覚えています。

8年以上にわたる米国生活を終え、帰国して帯広の民間病院を経て、宮崎大学に勤務して間もない頃、井尻先生より霧島市で近々開業するという報を聞き、開業前祝いに駆けつけました。いきなり挨拶と言われたのですが、ちょうど先生の留学時のボス Mary Goldring 先生がご主人の Steve と来られていたので、冷や汗をかきながら英語による即興スピーチをしました。それが平成26年10月ですので、それから4年経ち、隔世の感を禁じ得ません。まだ開業直前で不安と期待の入り混じる雰囲気であった霧島整形外科も順調に発展を遂げ、ついには病院となりましたし、私も鹿児島大学整形外科教室の教授に就任して鹿児島に戻るようになりました。再び井尻先生と仕事をするようになった訳ですが、米国より帰国後の互いの人生の右往曲折を考えると、感慨深いものがあります。バイタリティ溢れる先生のこと、普通の開業医に飽き足らず、ハード面の整備のみならずスタッフの教育にも力を入れ、地域に信頼される唯一無二の病院を目指して邁進されていることが、月2回の外勤でも良くみてとれます。脊椎外科の教育病院として、是非若手の教室員の教育にもご尽力頂きたいと思っております。

最後に、霧島整形外科の今後のますますのご発展を祈念致します。

人材のエネルギーは足し算ではなく掛け算

人材のエネルギーは足し算でなく掛け算

理事長 井尻 幸成

今、平成 31 年 2 月の新病院開院を目指して、職員の皆で力を合わせて準備しています。有床診療所から病院になるのには、行政・医師会との渡渉や手続き、設計建築工事、スタッフの増員と組織づくりや新電子カルテ等の導入、そして何よりも、どんな病院にするか、皆の夢を青写真にすることが必要です。坂元事務長・宮崎部長を中心に順調に計画が進んでいます。7 月からは村角先生が副院長となり、職員と医局の距離もグッ



と近くなりました。今後病院が大きくなる中で、医師とパラメディカルとの関係は大変重要です。村角先生のお人柄で、良いチームづくりが出来ると感じています。工事中の継続診療は少なからず患者さんにご迷惑をかけますが、幸いに沢山の患者さんから「新病院を楽しみにしています。」と言葉をかけていただき、ほっと胸をなでおろしているところです。

私の目指していることは、(1) 特色ある高度専門医療を提供する (2) 地域の皆様に必要とされる新しい健康維持のプラットフォームを創ることです。そのために、整形外科領域の中でも脊椎脊髄医療とスポーツ障害治療に特化した診療体制を作ること、運動器の健康維持を目指し、ヘルスケア教室やプール教室、病院外でのスポーツ選手のサポートなどを積極的に行うことを考えています。また、当院で働く職員が充実感と誇りを持ち、この病院を選んで良かったと思える環境を整えたいと思っています。私自身も社会人として、ともに働く職員と大切な仲間として生きていけたらと思っています。脊椎脊髄医療・スポーツ障害治療を選んだのは、当院の強みとしてのバックグラウンドがあると思うからです。

1. 脊椎脊髄治療について

私が医師になりましたのは昭和 62 年、今を遡るところ 31 年前であります。岐阜大学医学部を卒業後、故川崎哲郎（叔父）先生の勧めで鹿児島大学整形外科教室に入局しました。当時、酒匂 崇教授（現在のさこうクリニック院長先生）は九州の脊椎外科におけるフロンティアともいえる新進気鋭の脊椎外科医でした。Rectangular rod を用いた後頭頸椎固定術や OPLL の研究など、全国レベルの治療・研究を目指している教室に入らせていただいたことが、本当に良かったと思います。その後、武富栄二先生の手術助手を長年務め、また松永俊二先生には、フィラデルフィアのロスマン研究所に連れて行っていただいたこともあります。その際、ロスマン教授からサイン入りのテキストも頂きました。若い頃、世界一流の先生に接することができたことが、その後の夢に繋がったのだと思います。

私自身も長い長い長い武富先生の助手時代を経て、2000 年から執刀医として患者さ

んに手術を行うようになりました。以来大学病院時代に1513例、霧島整形外科開設後920例（平成30年9月29日現在）の脊椎手術を執刀させていただきました。毎日のことですが、手術が終わると全力を出し切った心地よい疲労感を感じ、“簡単な手術はないな”という口癖が一日の終わりを告げます。周りのスタッフに助けられながら、やりがいのある仕事につけた喜びを感じる瞬間です。

今年の7月から、脊椎脊髄外科指導医の田邊 史先生が就職してくれました。田邊先生は鹿大整形外科教室の後輩で、内視鏡手術の留学をされています。その一方、私が研修していた北海道大学神経外科に脊髄顕微鏡手術の見学に来るなど、貪欲に手術手技を高めてきた先生です。そして、何よりも彼の外科医としての長所は、謙虚で無私なところだと思います。脊椎手術はハイリスクです。鬼手佛心・術徳兼備の道を歩んでいくには、患者さんに心と技術を尽くすことで、自己の存在価値を確信できる人格が必要です。彼はその素養を持ち合わせておられる外科医です。病院化して脊椎脊髄センターを立ち上げたいと考えていますが、彼とともに、伝統ある鹿児島の脊椎医療の一端を担えるよう、手術・学会発表に頑張りたいと思います。来る平成31年2月には鹿児島市内にて脊椎の研究会 Kagoshima Spinal Cord Club を開催します。近年、利害関係のある企業の後援を受けた研究会が多数ありますが、純粋に臨床に興味のある人が集まる勉強会をしたいと思います。微力ではありますが、鹿児島の整形外科医療が健全さを取り戻し、いよいよ大きく発展できるよう、様々な型で努力していきたいと考えています。大学の先生方、脊椎の専門医の方々にご指導いただければ幸いです。

開業以来、一人術者で多数の手術を乗り越えてきましたが、病院のスタッフの協力・努力はかけがえのないものでした。皆、開業当時は脊椎の素人でしたが、今では外来の検査・ブロック、手術・術後管理、術後のリハビリテーションとどれをとっても、一流だと感じています。この努力をしてくれたスタッフが、ますますやり甲斐を感じる職場を作っていくことが、私の義務だと思っています。

2. スポーツ障害治療

開業以来、現・船橋整形外科クリニック院長の山浦一郎先生に、一方ならぬご支援を頂いております。山浦先生は実は鹿児島大学整形外科医局の後輩でしたが、やんごとなき事情で鹿児島を去り、船橋整形外科病院で勉強されトップレベルプロ選手を治療するスポーツ整形外科医になられた先生です。故郷の鹿児島に深い思い出もあり、鹿児島の若い整形外科医の方々に、その大きな背中を見せ続けてくれています。隔週で同じく鹿大出身の福田秀明先生と交互に来ていただき、研ぎ澄まされた手術をしていただいております。鹿児島の若い先生方が沢山見学に来られますが、この中から将来、山浦先生のような手術ができる医師が生まれることを期待しています。

また、4月から谷口教授に肩の専門外来をしていただいています。日本トップレベルの臨床を鹿児島に持ち込んで来られた谷口先生に直々診療をお願いできて、職員一同大変光栄に思っています。最先端の手術手技をもって活躍される谷口先生を頼って、霧島市内はもとより宮崎県など遠方から手術希望で来られる患者さんも少なくありません。近い将来肩関節治療のメッカとなる鹿大病院にて手術をお願いしています。リハビリ

テーションのスタッフは、先生のご指導を受けながら、間違いのない術後運動療法を行おうと鋭意取り組んでいます。

夕方のリハビリテーション室を覗くと、驚くほど多くの学生さんが治療を受けに来ています。当院の理学療法士チームは、地域のスポーツを支えたいと情熱をもって仕事にあたっています。少年野球教室、ボート競技や高校野球の帯同、障害者による電動車椅子サッカーの World Cup 米国帯同など、常に誰かが病院外のフィールドに飛び出して活躍しています。また、今は J2 昇格を狙う鹿児島ユナイテッド FC を公式スポンサーとして応援しています。

この地域は鹿児島県内でも若い人が多く、スポーツ選手の医療の需要がとても高いと感じています。山浦先生を始め多くの専門医の先生方のご指導を賜りながら、スタッフの情熱を結集して、地域の期待に応えていきたいと考えています。

リハビリテーションにも医学的な特徴を見出したいと考えています。その一つが、水中運動療法です。当院はプールを持ち合わせていませんが、2週間に一回、近隣のプールをお借りしてプール教室を続けています。今月で 54 回目を行いました。また、歴史ある温泉療法で有名なドイツの KEIDEL Bad に毎年数人の理学療法士が研修に伺っています。これを機に職員間でも英会話教室に通う人が増え嬉しい限りです。若者をどんどん海外に送り出し、国際的な community を作り上げたいと考えています。

平成 26 年 10 月、全くのゼロから立ち上げた医療施設ですが、今、多くの方々のお力添えを得て、活躍の場を広げようとしています。

人材のエネルギーは足し算でなく掛け算ということを、日々実感します。

すべてのスタッフが生きがいを感じる環境を整え、地域に必要とされる病院を創りたいと考えています。

皆様方のご指導、ご支援を引き続きお願いできれば幸甚です。

新病院をめざして ―この一年―

2018今年一年を振り返って

副院長 村角 恭一

秋風が吹き、金木犀の香りが漂うこの季節に入ると、昨年度の今時分、病院職員たちが新病院の設計図を広げて、ああだこうだと議論していた光景が懐かしく思い出されます。今年の2月に行われた地鎮祭、天候が危ぶまれた7月の上棟式、霧島国分夏祭り総踊り参加も好天に恵まれ、その間も新病院建築は着々と進行し、あの頃の設計図がいよいよ現実となってきました。



来年度の落成記念式、新病院本格稼働に向けて、多くの職員たちが医療系学会に出席、発表、スポーツ大会帯同、全国各地の名高い病院を訪問し研修を行ってまいりました。ここで職員たちに多くの研修機会を与えて頂きました井尻幸成院長、そして、猛暑の中、建築作業を行って下さった鎌田建設スタッフの方々に紙面をお借りして、改めて感謝申し上げます。霧島整形外科の優れた点の一つである「スタッフ一丸となった進取の精神」の良き伝統はこれからも是非継続して参りましょう。

私個人を振り返ってみても、この半年余りの間に、神戸の日整会、徳島のスポーツ医学会、船橋整形外科と恵庭病院での病院研修と目まぐるしく月日が過ぎ去って行きました。

私の後に恵庭に向かった職員が地震に遭遇、満足な研修を行えなかったのは災難でしたが、災い転じて、今後の緊急災害に対する職員たちの防災意識が高まるきっかけに繋がると思います。

船橋と恵庭での研修は、主に THA,TKA 人工関節手術研鑽目的で、最先端手術に対する考えや手術手技、細かなテクニックを学ばせて頂きました。それと同時に全国的に名の知れた病院へと発展していく原動力となった現場 Dr. たちの「優しさ、熱い想い」を私なりに感じ取って来ました。お忙しい中、突然の訪問にも係わらず、両病院ともに歓迎の宴を開いて頂きました誠にありがとうございました。

恵庭病院発展の立役者である前理事長、増田先生と現在の理事長、木村先生からは北大整形外科准教授、医局員時代の生々しいお話、石もて追われる如く医局を飛び出したお二人の決意、現在の病院発展に至る道筋、男たちの熱いドラマを聞かせて頂きました。

恵庭病院訪問の合間に訪れたクラーク博士像の羊ヶ丘、開拓精神を伝える北海道神宮でも思った事ですが、順風満帆なスタートでなく、むしろ多少の逆風を乗り越えた幕開けの方が組織や個人の発展には望ましいのかも知れません。

今年一年を振り返ってみて、愛犬家の私としてどうしても外せない出来事は、何と言っても「院長の愛犬、華ちゃん失踪事件」です。最初の1週間は皆「そのうちにひょっこり見つかるだろう」と楽観的に思っていました。けれども、その間に台風が来襲、1週間が2週間になると、院長先生の表情が段々曇りがちになっていく姿を職員たちは感じ取っていきました。そして、ある日を境に、華ちゃんの顔写真付きポスターが作成され、職員たちの尻に火がつき「私は近所のコンビニにお願いして貼ってもらう」「LINEで友達に呼びかけてみる」と、皆が、本気モードに突入したまさにその翌日に、華ちゃんは無事めでたく発見される運びとなりました。

今回の「華ちゃん失踪事件」では、個々の職員が、人任せでなく当事者意識を持ち、皆の力を合わせて難局に取り組んでいく事の大切さを学んだと思います。

それでは最後になりますが、来年度はいよいよ霧島整形外科が新病院として発展していく飛躍飛翔の記念すべき病院元年となります。

職員も増えて、病院はさらに大きく発展していきますが、これからも、業務拡大に伴う様々な課題を、職員全体で一致団結して乗り越えてまいりましょう。

今年4月に鹿児島大学医学部整形外科教授にご就任された谷口昇教授をはじめ、多くの優れた先生方が、当院にお越し頂きまして、地域医療の発展にご貢献して頂いております事と、患者様を通じて連携して頂いている近隣の病院さま方、いつも来院して下さる患者様方のご厚情に、心より感謝、お礼申し上げまして結びの言葉とさせていただきます。



新整形外科部長挨拶

新整形外科部長挨拶

整形外科部長 田邊 史

2018年7月より谷口昇教授のお許しを得て当院へ入職しました田邊史（ふみと）と申します。私自身は谷山出身ですが、妻が霧島、母親が加治木出身であり地元のような思い入れがあるこの土地で地域医療に貢献したいと思います。



腰痛や肩こりは常に国民愁訴の上位を占め、加速度的に進む高齢化により脊椎疾患で悩む患者さんはますます増加するとされています。新しい手術器械・手技、低侵襲化、新規骨粗鬆症治療薬などで医療も格段に進歩しています。手術手技だけでも前方アプローチ、後方アプローチ、側方アプローチ、除圧、固定、矯正、内視鏡、顕微鏡など多岐にわたり、数多くの引き出し（手技）からどの引き出しを開け、また組み合わせて治療していくか。月並みですが、患者さんの身体所見、画像所見は勿論のこと、家族背景、社会背景を含めた診断を行い、それぞれの患者さんのニーズにあった最善の治療を行うことを信条してまいります。また、脊椎疾患の術後は特に長期フォローが必要です。これまでは大学の医局員、転勤族で患者さんに不安を与えてしまいましたが、これからは霧島の地にじっくり腰を据えて診療することができ一生患者さんを診ていけることを嬉しく思うと同時に責任の重さを感じております。

人間として正しいことを正しいままに貫く

～大きな志を持つこと、常に前向きであること、努力を惜しまないこと、誠実であること、創意を凝らすこと、挫折にへこたれないこと、心が純粹であること、謙虚であること、世のため・人のために行動すること～

稲盛和夫氏の哲学をまさに地で行く井尻院長をサポートしつつ、志高きメディカルスタッフとともに“病気を診ずして病人を診よ”の初心を忘れずよりよい最新医療の提供に尽力していきたいと思っています。また、臨床医として日常診療での疑問点を臨床研究につなげ世の中に発信していけるような成果を常に探求していきたいと思っています。

2019年2月からの急性期病院開院に合わせ、地域の皆さんに信頼される病院、地域の医師に信頼される病院、全国の若手医師が就任したいと思う病院を目指し日々精進してまいりますので何卒よろしくお願い致します。

新看護部長挨拶

新看護部長挨拶

看護部長 深川 俊子

新病院の建設が佳境に入り、霧島整形外科が新しく生まれ変わろうとしています。そんな中に新たなポストとして看護部長に就任させていただきました。着任後2週間が経過いたしました。霧島整形外科が進化する勢いを感じています。開院後4年間で患者さまの外来受診率、入院稼働率共に伸びており、地域の方々に必要とされている医療機関として発展しているという印象が強いです。



当院が目指す「スタッフが力を合わせ、一人でも多くの方が痛みや麻痺の苦しみから解放され、再び快適な暮らしができる」医療は具現化され、脊椎脊髄疾患・変形性関節炎・スポーツ外傷・予防的健康管理に特化した整形外科診療は地域に徐々に根付いているようです。

高齢化社会において「住み慣れた地域で自分らしく生活する」というコンセプトの地域包括ケアシステムが各地域で実践運用されています。当院は10代～90代と全世代の患者さまを対象とした病院ですが、特に高齢患者様が多く、腰背部痛や手足の痛み・痺れを主訴として受診されます。外来で痛みを緩和する治療やリハビリを受けながら通院する方、入院して手術療法で痛みや痺れをとり、運動機能を回復して在宅に戻る方に対して、医療チーム全員で早期回復に向けた医療を展開しています。多くの方のかかりつけ医として、上記システムの役割を大いに発揮している病院だと思います。

先日、病棟で2名の患者様に出会いました。Mさんは78歳で脊椎カリエスによる胸椎症性脊髄症の固定術目的で入院されました。「2年後の国体に障害者卓球に出たいから、この足の痛みをとりたいの。」とおっしゃいました。腰は90度に曲がりとても卓球をする姿は想像できず驚きましたが、障害者部門で活躍しているようです。Rさんは87歳女性、生来元気で大きな病気もせず、海女さんを長くして現在は小魚の加工に勤しんでいる体格の良い方です。「6月まではミリン干しの仕事をしていただけ手がかなわんごとなった。ここで首の手術をしてもらって又働かんかね。」と言い、輸液スタンドを押しながら歩いて手術室に入って行かれました。私はこの2人の高齢患者様と接し、人間いくつになっても夢を抱いたり、自分のやりがいを持ったりすることは素晴らしいことだと思いました。本当に感動し、エールを送ります。

さて、看護部を立ち上げるにあたり私が大切にしたいことは、チーム医療を円滑に運営することです。幸いなことに、当院は各部署間の垣根がなくスタッフ皆が仲良しです。一番スタッフ数の多い看護部が要となり他部門との連携・調整ができればと考えています。又、看護部のリーダーとして、クリニックと病院の看護スタッフ全員が仕事にやりがい感を持ちながら、整形外科看護の専門性を発揮できるような職場環境を作っていきたいと思っています。スタッフ一人一人を大切に育てながら、患者様から信頼され温かいケアのできる看護チームを目指します。

今後は地域の医療機関・介護施設・行政等との連携を図りながら、地域住民にとって利用しやすく満足してもらえる病院となれるように頑張りたいと思います。

新薬剂部長挨拶

新薬剤部長挨拶

薬剤部長 改元 絵美香

10月より入職いたしました薬剤師の改元絵美香と申します。霧島整形外科が有床診療所から病院になることにともない新しくできる薬剤部で働かせていただきます。以前から霧島整形外科の良い評判はうかがっていたので、こちらで働けることをうれしく思います。

これまでの横浜市の調剤薬局と霧島市の病院で勤めた経験から、薬剤師とは人の命にかかわる薬を取り扱う重大な責任とそれを果たすための知識と技能が必要とされる職業です。患者さまから信頼をいただき、薬を適切に服用していただくことで治療や健康管理のお役に立つことが本分と考えております。

今回、薬剤師がいなかったところへの入職ということで戸惑うところもありますが、術徳会の発展のために努力する所存です。よろしくお願いいたします。



平成30年度

新人自己紹介

平成30年度 新人紹介

看護部 石牟禮 勉

平成30年4月9日に霧島整形外科に入職し6ヶ月が過ぎました。

日々の業務にも慣れてきたところです。

私は、普通科の高校を卒業し、整形外科病院で1年看護助手として勤務し准看護学校へ進学しました。准看護師の資格を取ったあとも整形外科で勤務し10年経った時に通信制の看護学校へ進学しました。学生時代は普通に勤務し、休みの時に勉強するというスタイルで凄く大変でした。その後も整形外科で7年勤めましたが、途中で学校教育に興味を持ち、准看護学校へ転職し教員として約4年勤めてきました。学校教育をしていく中で看護としての知識、技術の未熟さを感じもっとスキルアップしたいという思いが強くなり、好きな整形で未経験の分野である脊椎に興味を持つようになり縁あって霧島整形外科で勤務させていただくことになりました。

入職したすぐの頃は今までと違う環境、スタッフに緊張と不安で毎日を過ごしていましたが、スタッフの皆様が丁寧にご指導下さり、分からないままにすることがなく確実に覚えることができます。又、現在手術室勤務ですが時々病棟勤務もあり、手術を受けられた患者様が元気に病棟内で歩行されている姿を見ると回復されていく過程に喜びを感じる毎日です。

今後の目標としては

病院へ来られる患者様は、一人一人背景が違い、抱えておられる身体的、精神的苦痛、悩みも違います。患者様一人一人の心に寄り添った看護ができる看護師になれるよう精進していきたいと思っています。

目標を達成する方程式として「能力」×「熱意」×「考え方」がありますが、しっかりした熱意を持ち、前向きに考え、自分の持っている能力を出せば目標は達成できると信じています。

最後になりますが、心に響いた言葉を書きたいと思います。

思考に気をつけなさい。それはいつか言葉になるから
言葉に気をつけなさい。それはいつか行動になるから
行動に気をつけなさい。それはいつか習慣になるから
習慣に気をつけなさい。それはいつか性格になるから
性格に気をつけなさい。それはいつか運命になるから

マザー・テレサより



看護部 井上 竜太

平成 30 年 4 月より霧島整形外科に看護師として入職することになりました。

入職して 6 ヶ月経ち少しずつ環境にも慣れてきてきました。職員の方々も丁寧にいろいろなことを教えて頂き本当に感謝しています。霧島整形外科に来る前は違う病院で 22 年働いていました。外来に 4 年、病棟に 3 年、手術室に 13 年程勤務してきました。

私は元々すごく人見知りで人の目を見てしゃべるのがとても苦手でした。よく先輩看護師から怒られてばかりの日々でした。しかし、現在の奥さんに会ったことで今までの自分とは違う自分に生まれ変わることができました。鹿児島弁バリバリでよくしゃべって圧倒されて目を見てしゃべるように教育されていつのまにか初対面であった人でも自分からどんどんしゃべっていくようになりなした。

最近、よく言われることが初対面でしゃべっている患者さんでも他の看護師さんから知り合いなの？と聞かれるようになりました。もちろんみんな初対面の患者さんばかりです。そんな私ですが今回、ご縁があって霧島整形外科で働くことになり素晴らしい先生方やスタッフの皆さんに会えたことをとても喜ばしく思っています。

以前も整形外科の手術室で仕事をしていたのですが今回、脊椎という初めてのジャンルで戸惑うことと皆さんにご迷惑ばかりかけています。

少しでも皆さんの力になれるように精一杯頑張っていきたいと思いますのでよろしくお願いします。



看護部 今村 良美

霧島整形外科に今年の 2 月に入職し、病棟で看護師として日々、患者様のケアに携わっています、今村良美と申します。

私は、約 10 年間准看護師として臨床現場で経験を積み、その後、専門学校へ改めて進学、正看護師の資格を取得しました。現在は結婚して 3 歳と 1 歳の娘がいます。

霧島整形外科に入職する前、仕事と子育ての両立は、医療現場では難しい部分もあるかと、私自身感じていました。しかし、もう一度医療の現場で看護師として働きたい、自分自身の看護知識のスキルを上げたいという思いが強く、霧島整形外科に入職することを決意しました。早いもので入職して 8 ヶ月が過ぎました。この間、忙しさの中にも充実感と、程よい緊張感の中で仕事に向き合え、多くの事を学んでいます。医療の現場では診療科が変わると知識の未熟さを痛感することよくありますが、どんな状況でも学ぶ姿勢と、何事にも感謝の気持ちを忘れず、日々精進する姿勢を大切にしたいと思います。また、病棟では約 9 割の患者様が手術目的で入院されます。患者様の中には、家庭の事、手術に向けての不安など様々な思いを抱いて入院される方がおられます。その思いに耳を傾け親身な対応を心掛け、ケアをお願いして良かったと思って頂ける看護師でありたいと思います。

これからも笑顔を忘れず、人として看護師として多くの事を学び成長していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



看護部 榎本 由佳

平成 30 年 9 月より、霧島整形外科病棟看護師として、入職致しました榎本由佳と申します。

看護学校卒業後、急性期病棟に 4 年間勤務し、結婚、出産を機に退職。暫く子育てに専念し、子供達の手も離れ、4 年前に復職し、通所リハビリの看護師として 4 年勤務しておりました。

中学 1 年生の息子、小学 6 年生、3 年生の娘がおり、息子はサッカー、娘はバレーに奮闘中です。子供達の頑張る姿に成長を感じ、元気とパワーをもらっています。子供達の頑張りに刺激され、もう一度、医療現場へ復



帰いたしました。誰とでも明るく笑顔でコミュニケーションを取ることが出来るという自分の長所を活かし、知識・技術のスキルアップ、患者様の気持ちを大切に「一人一人に寄り添った看護」の出来る看護師を目標とし頑張りたいと思っております。

先輩方にご指導、サポートして頂きながら、緊張感を持ち楽しく勉強の毎日です。ご迷惑お掛けする事もあるかと思いますが宜しくお願い致します。

看護部 新屋 悟

皆さん初めまして。私は今年の4月から霧島整形で働かせて頂いております。新屋 悟と申します。私のプロフィールを簡単に紹介させて頂きます。高校卒業後に友人からの勧めもあり、看護学校に2年間通い准看護師の資格を取得しました。その後20歳で准看護師として整形外科へ勤務する事になりましたが、それ以来20歳から20年間ずっと整形外科での勤務を続けています。

元々、幼少の頃に小児喘息を患っており、年に数回発作を起こし、その度に入退院を繰り返していました。その時受けた看護師の優しさに触れた事が看護師を志すきっかけとなりました。

前職は整形外科でしたが、回復期病棟という部署に在籍しており、手術後のリハビリが必要な患者様だけがいらっしゃるような部署で働いていた為、わりとゆったりとした雰囲気の中で仕事をしていました。そのような日々が続く中で何か物足りなさを感じていたところ、霧島整形での職員募集の話を聞き、今年4月からの入職に至りました。

現在入職してから半年が経ちました。当初は同じ整形外科とはいえ、慣れない業務も多く、緊張と不安の日々を過ごしていた事を覚えています。ですが、そんな時に周りのスタッフの方々が嫌な顔ひとつせず自分の質問に親切、丁寧に答え、ご指導して下さいた事に感謝しています。

今後とも様々な事を学び、吸収して自らのスキルアップに努めて行きたいと思っております。

そして院長先生をはじめ、今までご指導して下さいたスタッフの方々や、患者様の為にも少しでも自分がお役に立てるように一生懸命頑張っていきたいと思っておりますのでこれからもご指導よろしくお願い致します。



看護部 花岡 淳子

7月から病棟で勤務しています、花岡淳子です。夫と2人の息子、柴犬と暮らしています。趣味は、映画観賞です。

25年前に整形外科で働いていましたが、結婚を機に退職し、出産や育児、家事との両立に自信がなく、長男が11歳になるまで仕事から離れていました。平成20年に、医療センターで開催された『再就業支援研修会』に友人の誘いで参加したのがきっかけで、看護職に戻りたいと思うようになりました。パートで医療現場に復帰し、子供の学校行事や、部活の応援に行けるように時間を考えながら働いてきました。年齢を重ねるごとに、また整形外科で働いてみたいと思うようになり、長く悩んだ結果、霧島整形に応募することを決心し、7月に採用して頂き3カ月が過ぎました。

まだまだ勉強不足で、緊張の日々ではありますが、患者さまが安心して安全に入院生活が過ごせるように、霧島整形の一員として頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞ御指導宜しくお願い致します。



看護部 福留 寛子

平成 30 年 6 月に医療法人術徳会霧島整形外科に入職いたしました福留寛子です。私は、北海道帯広市出身です。松山千春さんが歌う『大空と大地の中で』の歌詞にあるような、果てしない大空と広大な自然の大地、十勝で生まれ育ちました。帯広緑陽高等学校、帯広高等看護学院を卒業後、地元の総合病院へ就職いたしました。結婚後は、二人の子どもに恵まれパートで看護師を続けながら子育てをしておりましたが、主人が自身の出身地である鹿児島県へ転勤となり、平成 27 年に霧島市へ引っ越しをしました。北国とは環境も風習も違い戸惑うことも多いですが、周囲の方々にも恵まれ、現在は南国での生活を楽しんでおります。霧島市に来てからは、リハ重視型デイサービスでの勤務をし、在宅の生活を支えることへの面白さを感じていましたが、末子の就学を機にもう一度医療に携わりたいと考え、霧島整形外科へのご縁があり勤務させていただくこととなりました。



霧島整形外科は、地域の皆様から愛され信頼されている病院です。ブランクもあり、まだまだ未熟な面も多いですが、患者様一人一人がその方らしい生活を送ることができるために、患者様とご家族の気持ちに寄り添えるよう努力していきたいと思います。これからもよろしくお願いいたします。

看護部 政井 さとみ

平成 30 年 8 月に霧島整形外科に就職し 2 ヶ月が経ちました。私は看護師になって約 20 年になります。国分生協病院で勤務した後、結婚を機に熊本県へ移住し、そこでは緩和ケア病棟に 5 年ほど勤務しました。6 年程前に鹿児島県へ帰省し、霧島市の病院では人間ドックの検診や胃・大腸カメラ、マンモグラフィ等の検査業務に従事しました。



今までの経験の中で看護について衝撃を受けたのは緩和ケア病棟で余命数日～数週間の患者様、ご家族に対する接し方や言葉のかけ方の難しさを経験したことでした。簡単に説明すると、キューブラー・ロスの 5 段階（認否→怒り→取引→抑うつ→受容）にある患者様の精神状態をそのまま受け入れるという役割が求められ、対応してきました。この経験を活かし私は患者様、ご家族様に接するとき、また一緒に働く職員に対しても丁寧な対応をするように心がけています。整形外科の経験は全くありませんが、一生懸命がんばります。

休日は大好きで趣味でもあるハンドメイド（アクセサリ作り）を楽しんでいます。私の夢は家族でディズニーランドに行くことです。

看護部 山内 加代子

もうすぐ、霧島整形外科に入職して一年が経とうとしています。

看護の仕事をしていくなかでいろいろな事があり、落ち込むこともありますが、それより元気に退院される患者様を見送るときの喜びは、看護をするエネルギーになります。整形外科は、エネルギーをもらうことが他の科より多いと感じています。

看護職につき最初の入職先が整形外科でした。それから、内科、放射線科、脳外科、循環器科、小児科などの病棟勤務を経験し、五年間離職し子育てしながらパートで看護の仕事しておりました。久しぶりの整形外科での勤務で緊張状態です。



微力ながら、今までの経験を生かし整形外科の看護を学び、私ができる看護の領域をひろげ、チーム霧島整形外科の一員として努めてまいります。よろしくお願い致します。

看護部 吉村 恵子

平成 30 年 7 月 1 日より外来看護師として入職しました吉村恵子と申します。20 数年前に看護学校を卒業し、産婦人科、NICU で勤務し、結婚を機にしばらく医療の現場から遠ざかっておりました。

家庭と仕事の両立に悩み、いつかはまた看護師として働きたいと思いつつも、子育てのしやすさを優先し市役所で 3 年ほど事務をした後、5 年ほど介護認定業務に携わっておりました。その後、長いブランクを経て内科のクリニックへ転職いたしました。内科では胃や大腸の内視鏡検査の介助や、特定健診、その他診療補助を学ばせていただきました。内科で学ぶべきこともまだまだ沢山ありましたが、このたび霧島整形外科が増床スタッフを募集すると人づてに聞き、まだ経験したことのない分野を学んでみたいと思い応募いたしました。実際に働き始めてからは、目の回るような忙しさと聞きなれない言葉や、見たことのない治療など毎日がとても勉強になっております。慣れない業務でてきばきと仕事をこなせずご迷惑をかける日々ですが、先輩方から多くのことを学び助けられています。今後ともご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。また、毎日多くの患者様にご来院していただいておりますが、忙しくても丁寧な対応を心がけ、少しでも皆様のお役に立てるよう努力してまいりたいと思います。



看護部 穂森 麻衣子

私は、病棟の看護助手として霧島整形外科で働くようになって 2 ヶ月がたちました。今は、だいぶ仕事内容にも慣れてきて、入院患者さんとのコミュニケーションもとれるようになってきました。前働いていた所も、整形外科で 3 年ほど勤めていました。

同じ整形外科でも仕事内容は違うので、清拭やおむつ交換、OPE 後のベッド、病室準備など初めてする仕事もありました。

私が働く時には、看護助手の方がもう辞められた後だったので、看護師さんから忙しい中、色々教わりながらやり方を覚えました。これからは、看護師さんの負担が少しでも減って役に立てるよう努力していきたいと思っています。

私は今の看護助手の仕事が、自分に合っていて体力のいる仕事できつい時もありますが、やりがいがあると思います。患者さんに「ありがとう」と感謝されたりすると、とても嬉しい気持ちになり頑張れます。入院患者さんが気持ちよく、入院生活が送れるように自分ができる事、もっと沢山手助けできればと思います。



看護部 八ヶ代 奈々

10 月 1 日に看護助手として入職しました八ヶ代（やかしろ）奈々です。

珍しい苗字ですが旦那によると霧島市国分の上小川地域（国分京セラ工場付近）ではメジャーな苗字だそうです。

出身は熊本県の小国町で温泉や大自然が有名で、そのせいか自分でものんびりした性格だと思っています。もし忙しくて疲れたときは一度立ち寄ってみてください。コンビニよりも温泉のほうが多いのどこかなところなので、リフレッシュできると思います。

ちなみに近くには黒川温泉や阿蘇ファームランドがあります。

趣味は学生のころからしていたテニスや卓球などスポーツです。

体を動かすことが好きなのですが、今は何かと時間が取れていないので、少しずつ自分の時間がとれたらまた始めたいと考えているところです。

鹿児島に来る前に病棟の看護助手としての勤務経験はあるのですが、休職していたブランクも長くてほとんど未経験者と変わらないので、お手数ですが一からご指導よろしくお願いいたします。



看護部 前原 まなみ

平成 30 年 11 月に看護師として入職しました前原まなみと申します。ここ霧島市国分の出身で、加治木看護専門学校を卒業し免許取得後、委託先であった大阪府の病院に 5 年と半年勤めて参りました。最初の 1 年間は呼吸器循環器病棟、4 年間中央手術室で勤務していました。大阪在住中に帰省で帰ってくると街中のあちこちが昔と変わっていて、「こんなところに整形外科ができたんだ。」と思ったことが、私にとって霧島整形外科の第一印象でした。霧島整形外科が開院したころ祖父も患者として通院していたことがあり「どんな病院？」と聞くと「すごく待つけどいい病院。」と言っており、待ち時間が長くても診療を受けたいと思わせるくらいのいい病院なんだなあと感じたのを覚えています。今回、国分に帰ると決めた時に転職先として真っ先に浮かんだのが霧島整形外科でした。インターネットで平成 31 年 2 月に病院に拡大することを知り、また職員ブログで職員間の仲の良さや、他病院の見学、研修等の豊富さが伝わり、自身のキャリアアップを望める病院だと確信し入職を希望しました。



前職での手術室勤務で手術手順や器械の操作方法等の勉強に追われ、患者と接する時間が少ないことにジレンマを感じ今回霧島整形外科では病棟勤務を希望しました。整形外科の手術を受ける患者の術前術後の看護の基礎知識・技術をしっかり身に付け、患者に「前原さんに担当してほしい。」と言ってもらえるような看護師になりたいです。まだまだ未熟な私ですのでご指導のほどよろしくお願いいたします。

診療放射線部 北園 卓也

5 月から診療放射線技師として働くことになりました。北園卓也と申します。よろしくお願い致します。出身は鹿児島で松陽高校を卒業した後、鹿児島医療技術専門学校に入学しました。専門学校では、バスケットをしており、高校の部活を引退してだらしなくなった体を毎週月曜日と水曜日は講義が終わった後、少しは鍛えなおしたほうがいいと思い練習に取り組んでいました。毎週練習に取り組んでいたおかげで専門学生 1・2 年生の時には、専体連で優勝することができ、九州大会出場を果たすことができました。九州大会でも良い成績を残すことができ、とても良い思い出になっています。



私は、5 月から仕事場の近くで初めての一人暮らしをしているので、適度に体を動かしたり、食事なども考えてとるようにし、体調に気をつけて 1 日でも早く仕事に慣れ組織の一員として健康を維持しながら仕事を頑張っていきたいと思います。

リハビリテーション部 足立 貴志

平成 30 年 4 月に医療法人術徳会霧島整形外科に理学療法士として就職いたしました足立貴志です。私は大分県大分市出身の 23 歳です。高校までの 18 年間を大分県で過ごし、平成 26 年に鹿児島大学に入学しました。今年で鹿児島 5 年目になります。小学 3 年生から大学 4 年までの 14 年間ハンドボールをしており、現在も社会人チームに在籍しハンドボールを続けています。趣味はスポーツ、特に球技をすることで、将来的には何らかの形でスポーツに関わる仕事をしたいと考えています。



霧島整形外科では脊椎脊髄疾患、スポーツ障害に力を入れており、さらには自分が疑問に思ったこと、興味を持ったことについて研究するための環境が整っている点も魅力だと思います。職員全員が勉強する意欲が高く、常にレベルの高い医療を提供することを心掛けており、学会での研究発表や県外・海外研修にも積極的に取り組んでいる病院です。今はそんな先輩たちについていくのに精一杯ですが、日々の業務に加え、ヘルスケア教室、スポーツ教室など多くの勉強の場、経験の場を通して少しでも早く先輩たちに追いつけるよう、皆様の

お力になれるよう取り組んでいきたいと思ひます。よろしくお願ひ致します。

リハビリテーション部 今園 由美

平成30年2月に入職いたしました。私は前職も医療従事者として患者様に接しておりました。今回職種は違ひますがまた患者様に接することができ喜びを感じております。現在整形外科という環境に身を置き、痛みを抱えながら来院される患者様に対して自分の今出来る精一杯の事が出来ているだろうか？笑顔や思いやりが欠けていないだろうか？と自問自答の日々です。

当院のスタッフの皆様や患者様はとても優しく日々の業務に余裕なくアタフタしている私に対して笑顔で接して下さり自分の力不足を情けなく思う時もあります。

私は今リハビリのお手伝いをさせていただいているのですが患者様の回復が目に見えてわかりそれに伴い言葉や表情が明るくなり外出や行動範囲もかわり地域、社会に復帰していく姿を目にすることができとてもやりがいのある職場だと感じております。もっともっと自分自身の知識と技術を高め患者様一人一人に寄り添いサポートし地域医療に貢献できるように精進してまいります。



リハビリテーション部 上田 晃希

平成30年4月より新入職員として霧島整形外科のリハビリテーション部で仕事をさせていただいています、上田晃希です。私は、鹿児島県鹿児島市で生まれ育ち、人生で初めて鹿児島市から生活の場を外に移しました。昨年まで鹿児島大学大学院に在籍しており、研究室の榎間教授と井尻院長との繋がりもあったことから、非常勤スタッフとして霧島整形外科へ週に2回働かせていただいていたいました。非常勤の頃から、リハビリテーション部やその他の部署の方々もとても優しく、様々なことを指導してくださり、とても働きやすい環境だと感じていたので、霧島整形外科に入職できとてもうれしく思っています。

霧島整形外科に入職して早くも半年以上が過ぎ、仕事をするの大変さを改めて痛感しております。そんな中でも、仕事を行うだけでなく、研究活動も行っていきたいと思ひますが、現実はなかなか思うように進んでいない状況です。研究活動によって私の疑問を少しでも解決させ、それがすぐ臨床に応用できないものであっても、少しずつ患者様へ届けられるようになれば幸せです。そのためにも、日々の業務もその他の業務も何もかも一生懸命に頑張っていきたいと思ひます。今後ともよろしくお願ひいたします。



リハビリテーション部 隈元 美紀

平成30年4月に作業療法士として入職いたしました隈元美紀と申します。

霧島整形外科では今年度より作業療法の立ち上げということで、病棟リハビリテーションを中心とした作業療法業務に従事させていただいております。

整形外科のリハビリテーションというと、まず理学療法士を想像される方も多いかと思ひます。しかし、脊椎脊髄疾患が手術件数の約半数を占める当院においては、手の運動麻痺や神経症状、上肢機能障害を認める患者様が散見され、日常生活に制限をきたしている方も少なくはありません。そこで上肢機能訓練に加え、日常生活訓練や機能障害を補完する自助具作成などを行う作業療法が必要となります。

現在、作業療法士の対象疾患としては脊椎脊髄疾患、関節疾患、手外科領域のリハビリテーションが挙げられます。積極的な機能訓練を行い「生活できる手」を目指すだけでなく、食事、トイレ動作、更衣、整容、入浴といった日常生活動作や、家事動作などの手段的日常生活動作、復職といった拡大



的な能力向上を図り、患者様の「生活の質」の向上を目指していきます。

この半年間で多くの患者様と関わる機会をいただきましたが、生活の中でそれぞれに困り事抱えておられます。お一人おひとりの悩みや希望を聴き、医師、看護師、理学療法士など他職種と連携を取ることによって患者様の“なりたい自分”に少しでも近づけるように日々邁進していきます。まだまだ不勉強で至らない点も多々あるかと存じますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

リハビリテーション部 田中 智菜

こんにちは。リハビリテーション部理学療法士の田中智菜（たなかちな）と申します。3年の専門学校を卒業し入職させて頂きました。湧水町の栗野町出身で幼少期から活発に過ごしてきました。趣味は、ドライブに行くことや、時間を気にせず1日をのんびりと過ごす事です。最近は先輩方や友人とアウトドアをすることにはまっています。また、昔から体を動かすことが好きで学生時代はスポーツに打ち込んでいました。その為、怪我をすることが多々ありましたが、そこで理学療法士という素敵な職業を知ることができ現在、その職業に就けていることを嬉しく思っています。まだまだ、駆け出しで職場にもようやく慣れてきたところですが、スポーツをして培ってきた根性と持ち前の明るさ、思いやりを忘れず患者さんと向き合い、心身ともに「楽になった」、「あなたに会えてよかった」と思ってもらえるような理学療法士になれるように努力していきたいと思っています。先生方はじめ、先輩方、患者様にもご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、精一杯頑張り、病院に貢献していきたいと思っています。どうぞ、よろしくお願いいたします。



研究会主催

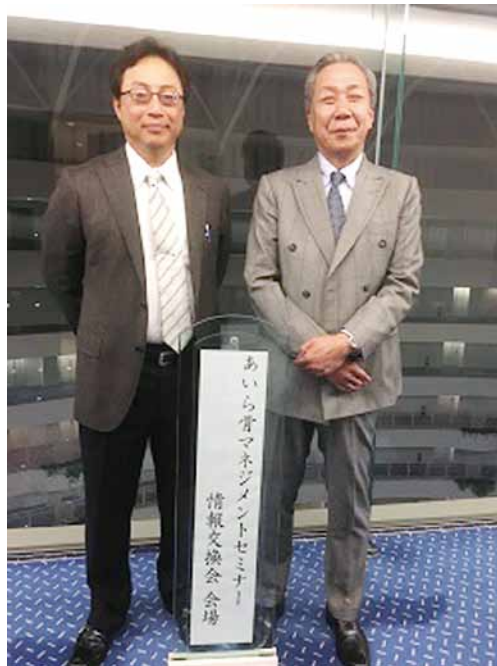
あいら骨マネジメントセミナー

平成 30 年 3 月 8 日ホテル京セラにて行われた“あいら骨マネジメントセミナー”の座長をお引き受けいたしました。

演者は、近畿大学医学部奈良病院教授、宗圓聰先生で、日本骨粗鬆学会の理事長をお務めです。

骨粗鬆症の薬物療法に関する最新の話題～抗 RANKL 抗体の新たな展開～と題した講演を拝聴しました。顎骨壊死に関わる歯科医と整形外科医の協力が今後必要と痛感いたしました。始良地区の三師会にお願いして、もう一度宗圓教授と、出来れば日本歯科医師会のご専門家をお呼びして、勉強会をできないものかと考えています。

懇親会で、宗圓先生が、lacunae の頻度も整形外科領域の研究と、歯科領域の研究では全く違うのだよ、と教えていただいたことが印象に残りました。私達が常識と思っていることが、まだまだわからないことばかりだと感じました。大学院生時代、bone histomorphometry をかじりましたが、もっともっと勉強すればよかったのにと思わずにはいられない夜でした。💧



受賞報告

コ・メディカル形態機能学会 学会奨励賞を受賞して

鹿児島大学大学院保健学研究科
非常勤理学療法士 中西 和毅

鹿児島大学大学院保健学研究科に所属し、霧島整形外科で非常勤理学療法士として勤務させていただいております、中西和毅と申します。

大学院修士課程から「老化に伴う筋や脳、活動量・運動機能低下に対する運動療法の予防効果」をテーマに研究を進めてまいりました。平成30年9月1・2に開催された、コ・メディカル形態機能学会に「運動は加齢による運動機能の低下や海馬グリア細胞の活性化を抑制する」という演題で参加させていただきました。この研究は理学療法で、実際行われている運動療法が認知発症だけでなく、記憶に重要な「海馬」の老化を抑えることができるのか、ということについて検討したものです。認知症が発症する前に運動療法を行えば、海馬の老化を抑えることができ、活動性や運動機能を維持することが可能であった、という研究結果となりました。このことから、活動性や運動機能の低下は脳の老化に関連しているといえるかもしれません。発表は、多くの方に質問していただきました。まだまだ至らない点もあり、アドバイスをいただくなど大変有意義な時間となりました。



学会終了後、授賞式が行われる懇親会に参加し、学会の緊張から解放された反面、同期で、昨年奨励賞を受賞した霧島整形外科理学療法士の上田晃希さんに追いつかなくてはとプレッシャーを感じていました。授賞式で名前を呼ばれたときは、大変うれしく、ますます研究活動に尽力していこうと感じました。修士課程から研究を行い、三年目でようやく奨励賞受賞という形で成果を出すことができました。この研究成果を出すことができたのは、井尻院長をはじめ、リハビリテーション部宮崎部長のご理解や榊間教授の熱心なご指導、霧島整形外科のスタッフが臨床場面でのアドバイスがあったからこそだと感じています。この場をお借りして深くお礼申し上げます。

今後、より一層自身の研究活動に邁進するだけでなく、霧島整形外科の研究活動を微力なが

らサポートさせていただきながら、霧島地区の患者様、地域住民の方々健康に少しでも研究成果を還元していきたいと思います。

鹿児島大学大学院保健学研究科
非常勤理学療法士 谷 明

非常勤理学療法士として勤務させていただいています、谷明と申します。現在、私は鹿児島大学大学院保健学研究科に所属しており、勤務日以外は基礎理学療法について研究しています。



今回、9月1日と2日に佐賀大学で開催されたコ・メディカル形態機能学会にて「Draw-in と頭部挙上による、外腹斜筋、内腹斜筋、腹横筋の筋厚変化」というタイトルでポスター発表を行いました。この研究は、腰を手術した患者さんが手術後早いうちから行う体幹筋トレーニングについて、健常者を対象に超音波診断装置（エコー）を使って調べたものです。霧島整形が使っているエコーをお借りして鹿児島大学保健学研究棟で行ないました。初めての学会発表かつエコーに関して現在広く行われつつある研究なので、興味あるものとして見に来てくださる他の研究者がいるか不安が大きかったです。しかし、予想に反し多くの方とディスカッションができ、また発表時間ギリギリまでポスターの前でアドバイスをいただくことができました。

発表を行った夜に学会の懇親会と奨励賞授賞式がありました。学会の緊張から解き放たれ他大学院生や先生方と会話を楽しむことでいっぱいでしたので、授賞式で自分の名前が呼ばれたときは非常に驚きました。この研究に関して病院のエコーを快く使わせていただいた井尻院長、指導していただいた榎間教授や同研究室の先輩方、参考にさせていただいた先行研究を行った藤川さんをはじめそれに携わった霧島整形のスタッフにこの場を借りて深く感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

今後、この研究を通して得られたことをさらに発展させ、霧島整形の患者さんに還元できるよう励んでいきたいと思っています。



自己血輸血看護師認定

学会認定・自己血輸血認定看護師を取得して

看護部

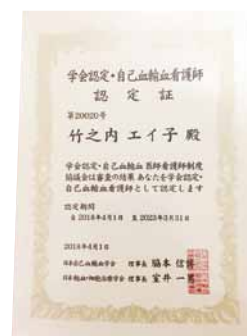
外来看護師主任 竹之内 エイ子

当院は年間約 300 件の自己血輸血を外来で行っている状況です。検査部や輸血部がない状況下で開院当初から多くの自己血輸血に携わり、様々なトラブルに遭遇する事もありました。そこで、鹿児島赤十字病院での取り組みで地域ネットワークに向けた教育セミナーに数回参加させていただき自己血輸血認定看護師制度があることを知りました。専門の知識を持って、より安全な自己血輸血を行っていけるように、また、スタッフ教育のためにも今回の受験を決めました。

3月7・8・9日の3日間で講習・研修・筆記試験まで実施され各地方から20名の受験者が来られました。会場は、大阪の血液センターと大阪中央公会堂で行われ講習会での講師の方々は学会理事長の脇本信博先生、近畿大学医学部堺病院整形外科医菊地啓先生、青森赤十字血液センター看護師の小松久美子様より大変わかりやすく講演して頂き、当院での輸血療法について振り返ることが出来、知識・技術を深めることが出来ました。また、私たちが普段何気なく行っていることの問題点・改善点が見えてきました。

筆記試験では、問題数120問に小論文が出題されマークシートと記述問題があり、問題数の多さに驚き、久しぶりの緊張感を抱きました。無事3日間を終了し、試験から1ヶ月後に合格発表の連絡があり授賞式を終え認定証が手元に届き改めて今回の3日間は実りある日々であったことを実感いたしました。

今後、当院での輸血療法・自己血輸血をさらに安全に実施し、質の高い医療を提供できるよう看護の向上の活動や指導に貢献していきたいと思います。



海外研修 KEIDEL bad 報告

ドイツ研修 ～第1版報告～

報告者 井尻 幸成

一年ぶりにドイツのフライブルクを訪れ、Dr.med.Johannes Naumman にお会いしてきました。フライブルク大学医学部の温泉治療の大家です。ローマ時代から続く治療に科学的なアプローチで取り組んでおられます。来年2月9日に鹿児島市で開催する spinal cord club の講演の打ち合わせや、病院や施設の見学をしてきました。整形外科の Dr.med.Hans-Jurgen Hesselschwerdt 先生も紹介していただき、整形外科領域のリハビリテーションにつき、学びました。後発隊の四人と合流し、Barden Barden の見学、音楽家の小川由美さん宅での歓迎を受けて、充実した旅行を終えました。偶然、南風病院の吉野先生、前田先生と Barden Barden 駅で出会いました。こんな奇遇もあるのですね。

今回の経験で、新しいアイデアを抱いて、帰途につきました。お世話になった皆さん、有難う。



右側 : Dr.med.Johannes Naumman

左側 : Dr.med.Hans-Jurgen Hesselschwerdt

ドイツ研修 ～第2版報告～

報告者 下村 珠美

『研修日程』 10月16日～19日

10月16日：Naumman 先生との Baden-Baden 見学

17日：Cassiopeia Therm 見学・体験

18～19日：KEIDEL BAD 研修

今年でドイツでの水中運動研修を開始して4年目となりました。年に1回程度、プール教室のスタッフが研修に行かせて頂き、ドイツの伝統ある水中運動・療法を学び、当院の“プール教室”をより良いものに出来るよう努めています。今年は、プール教室開始当初からのスタッフ3名と今年度からの新規スタッフ1名で研修に行ってきました。

研修初日は、第一陣として先に行かれていた井尻先生と合流し、フライブルグ大学の Naumman 先生に Baden-Baden の歴史と施設を案内して頂きました。ドイツと水の関わりは古く Baden-Baden はローマ時代からある温泉保養地であり、昔の方は Trinkhalle という場所で温泉水を飲めば病気が治ると信じていたようです。また、健康のために温泉水を飲んで朝のウォーキングを行っていたそうです。Baden-Baden の町自体が草・木がたくさんあり自然の中で散歩ができる環境が整っていました。日頃、車移動が多くなっている私自身も運動不足を感じながらドイツの歴史に触れることが出来ました。そして、Naumman 先生に少しお時間を頂き、日頃の水中運動での疑問や運動効果に対しての研究についても相談する機会がありました。プール教室を継続していく中で、課題になっている運動内容の確立と効果について検証していくように努力していきたいと思いました。



真ん中：Naumman先生



Trinkhalleの温泉水

研修2日目は、Cassiopeia Therm という施設に見学に行きました。ここはシュヴァルツヴァルト（黒い森）南部に静かに佇む、ローマ時代から続く由緒ある温泉地の一つです。すぐ近くにはローマ浴場の遺跡もあり、長年の温泉療法の歴史を肌で感じました。Cassiopeia Therm 内では建物内に大きなプールがあり、そこで20分クールでの水中体操を一般向けに行っていました。誰でも参加できる様子で、運動指導の方がプールサイドに立ち上半身や下半身の運動を行っていきます。普段、私たちが行っていない運動も含まれており大変参考になりました。



Cassiopeia Therm



ローマ浴場の遺跡

研修4日目・最終日は、毎年お世話になっている KEIDEL BAD に研修に行かせて頂きました。KEIDEL BAD は一般向けのサウナやプールもありますが、保険を利用した水中運動や陸上でのトリートメントが受けられる施設となっています。治療目的での水中運動・治療や陸上でのトリートメントは理学療法士の方が行っています。保険を利用した水中運動・治療は、集団と個別があり集団は20分を1セットとし指導者が交代しながら行っています。個別療法は、一対一で40分程度の疾患に合わせた治療・運動を理学療法士の方が行っています。今回、理学療法士の Hafner 先生に水中での個別トレーニングと身体機能の評価について教えて頂く機会がありました。Hafner 先生はマックミラン法（ハロウィック法）を水中運動で使用されており、浮力を利用した中での体幹を中心とした上下肢機能の評価を行っていました。特に左右のバランス機能の差がある点などが良くわかります。私たち自身でも練習しましたが、意外に体を浮かせながらバランスを取るといことが、どこに力を入れればいいのか難しいことも実感できました。また、Hafner 先生以外のスタッフの方も治療内容を説明して頂ける場もあり、腰椎固定術後の方の治療見学もできました。水中運動は術後2か月から開始していたようで、当院の術後治療に活かせる可能性も感じました。今回の研修で確認できたことも多く、当院では集団での水中運動のみ行っている現状であり、今後治療を視野に入れた場合の個別療法での運動・治療確立の課題も見えてきました。これから、プール教室も継続しながら、一つでも多くの運動効果を見出していけるようにスタッフで協力し合い行っていきたいと思います。



真ん中：Hafner先生

鹿児島ユニテッドFCSponsorシップ

鹿児島ユナイテッドFCスポンサーシップについて

リハビリテーション部部长 宮崎 雅司

今年で2年目のスポンサーシップです。昨年は夏まで昇格圏内にいながら、秋にまさかの失速。生みの苦しみとは言いますが、昇格の厳しさを感じました。またここ2年エースストライカーとして君臨していた藤本選手の移籍もあり、今年の開幕までなかなかJ2昇格へ太鼓判を押す声が少なかった春先でした。しかも開幕戦もまさかの完敗、続く試合もなかなか調子がでない様子でしたが、三浦監督のさすがの指導力と選手の意気込みで夏に向け徐々に調子をあげ、7月、8月の連戦連勝一気にJ2昇格圏内へ駆け上がりました。昨年の経験が今年にかけるチームの意気込みを強くし、鹿児島県民とのつながりを強くしたのでしょう、鹿児島一丸となって現在2位を確保し、J2昇格に手をかけています（10月17日現在）。これはもう応援するしかない！



昨年末に当院へお越しくださった、川森選手、谷口功選手も大活躍、スタジアムも昨年改修中だったホームスタンドが完成し雰囲気抜群、サポーターの熱狂的な応援がスタジアムを盛り上げて、これはJ2行くしかないでしょ！っという盛り上がり。明治維新150周年も後押しして、最高のクライマックスが待っているか！？

2019年、当院病院化とともに楽しい一年が待っています！



《試合前》

開幕戦前のスタジアム前、
盛り上がっています！



《侍・三浦監督》

ポーズも決まって、正に三浦斉彬！
僕らの維新を導いて！



《スタジアム中》

大きなビジョン、きれいなピッチ、情熱のサポーター、最高です！



《選手2名》

昨年末に来て下さった、
谷口選手、川森選手、
腕には当院の名前も？

この一年

一年の主な出来事

事務長 坂元 隆文

催事

2018 年 1 月 4 日

医療法人術徳会 霧島整形外科 仕事始め

2018 年 2 月 1 日

村角恭一医師 常勤医師として就任

2018 年 2 月 17 日

霧島整形外科病院建築工事起工式

2018 年 2 月 25 日

第 1 回 霧整潮友会 内之浦沖釣行

2018 年 3 月 4 日

第 2 回 霧整潮友会 佐多岬沖釣行

2018 年 3 月 11 日

鹿児島ユナイテッド FC のオフィシャルスポンサー 開幕戦

2018 年 3 月 17 日

嘉手苅寿林さん結婚式

2018 年 3 月 24 日

黒葛野里穂さん結婚式

2018 年 4 月 8 日

第 3 回 霧整潮友会 錦江湾真鯛釣行

2018 年 6 月 8 日～10 日

第 4 回 霧整潮友会 トカラ釣行

2018 年 7 月 1 日

村角恭一医師 副院長に就任

田邊史医師 整形外科部長として就任

2018 年 7 月 11 日

国分中央高校野球部鹿児島大会 帯同

2018 年 7 月 14・15 日

鹿児島県選抜ボート競技 九州ブロック帯同

2018 年 7 月 14 日

第 54 回 霧島・国分夏祭り参加

2018 年 7 月 30 日～ 8 月 2 日

高校インターハイ ボート競技帯同

2018 年 9 月 6 日

北海道 えにわ病院へ研修

2018 年 9 月 18・19 日

名古屋第二赤十字病院へ研修

2018 年 9 月 28 日～ 10 月 3 日

国民体育大会ボート競技帯同

2018 年 10 月 15 日～ 20 日

ドイツ アクアセラピー 見学

2018 年 11 月 1 日

深川俊子氏 看護部長就任

改元絵美香氏 常勤薬剤師就任

2018 年 11 月 3 日

第 5 回 霧整潮友会 奄美大島釣行

2018 年 11 月 23 日

木村玲央さん結婚式

2018 年 12 月 1 日

第 5 回 医療法人術徳会 霧島整形外科 忘年会

太公望

平成30年 準 太 公 望



日 時：平成30年 6 月 9 日

場 所：トカロ列島

魚 種：カンパチ

重 量：約 6.0kg

長 さ：約 1.2m

太公望 不在

非計測のため、本人辞退。（もっと大きいのでないと恥ずかしい）

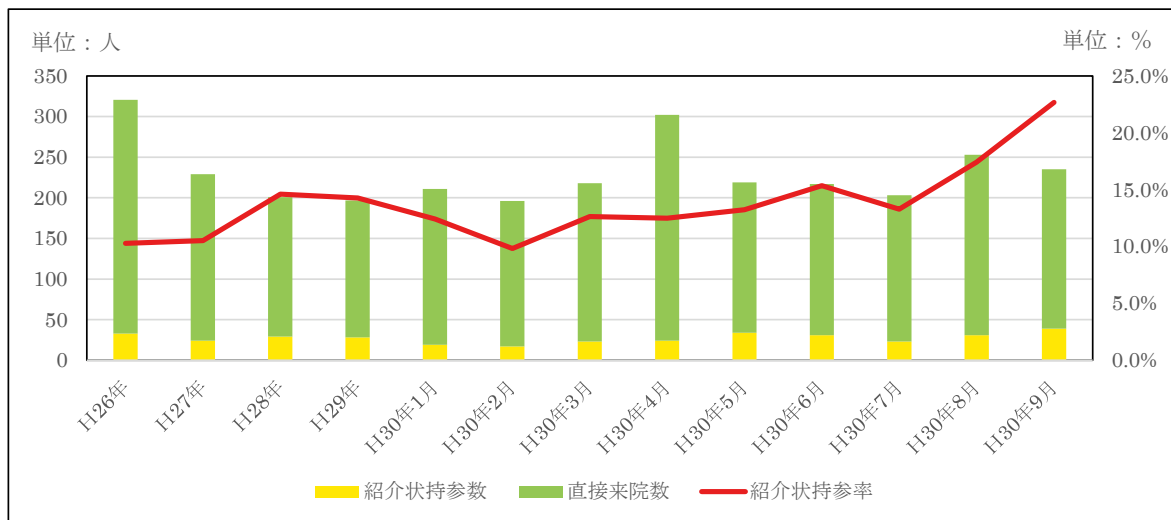
診療実績

外 来 統 計

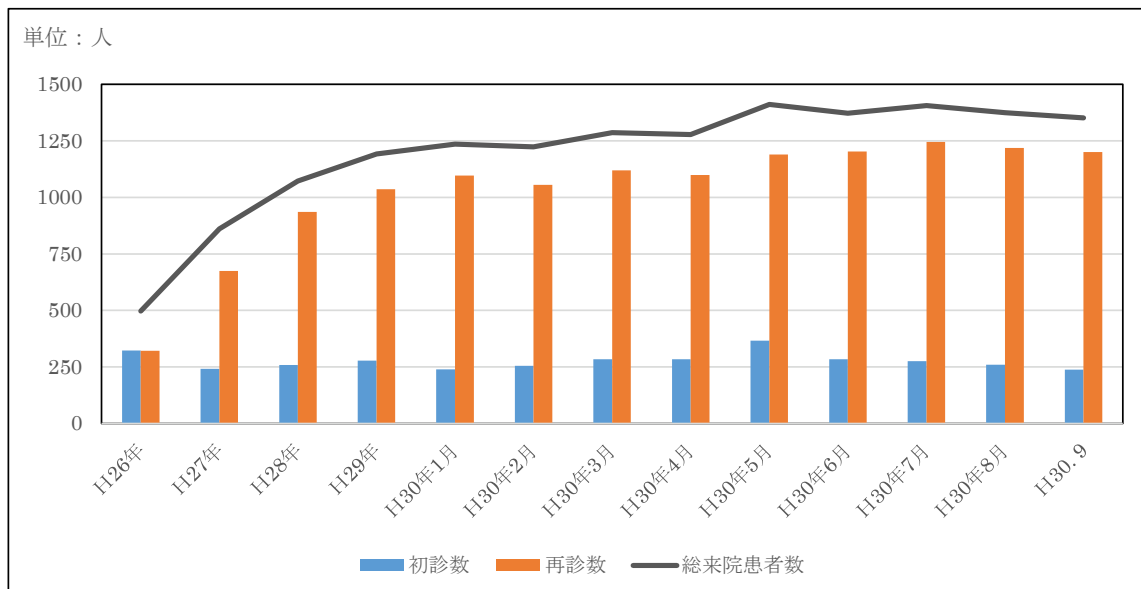
医事課 増田 風沙

当院では院長の井尻医師をはじめ、H 30 年 2 月から村角医師、7 月から田邊医師が常勤医師として加わり、龍医師や各分野の先生方が外来診療を行っております。開院当初から平成 30 年 9 月 30 日までの 4 年間の来院患者数は 10,189 名です。下記は過去 4 年間の平均と H 30 年 1 月 1 日から 9 月 30 日までの各項目別における患者様の表及びグラフ化したものです。

新患数及び新患の紹介状持参率推移



月別外来来院患者推移



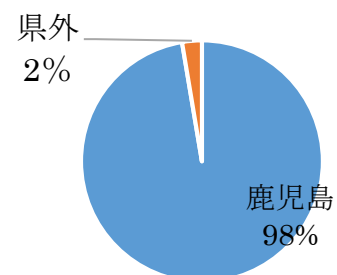
外来患者地域圏

都道府県別内訳 (人)

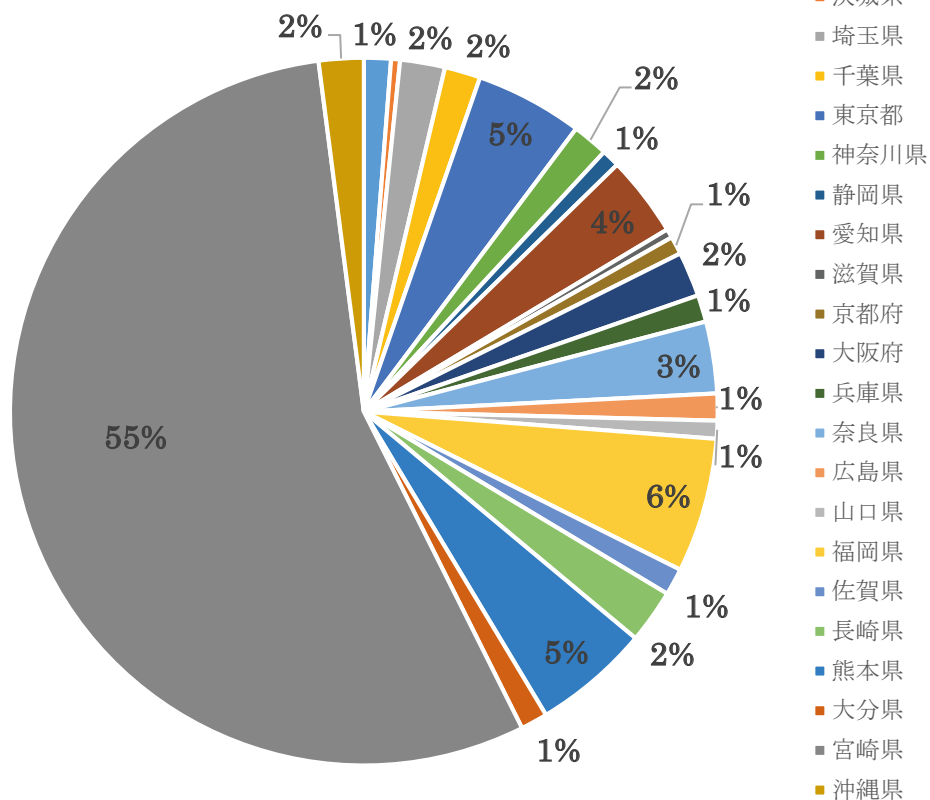
鹿児島県	9,945		
北海道	3	兵庫県	3
茨城県	1	奈良県	8
埼玉県	5	広島県	3
千葉県	4	山口県	2
東京都	12	福岡県	15
神奈川県	4	佐賀県	3
静岡県	2	長崎県	6
愛知県	9	熊本県	13
滋賀県	1	大分県	3
京都府	2	宮崎県	135
大阪府	5	沖縄県	5

県外の来院患者様の地域圏は、
宮崎県が最も多いが
本州からの来院も増加している。
県外から来院されている方は
帰省のUターンの方が多い。

鹿児島県内の割合

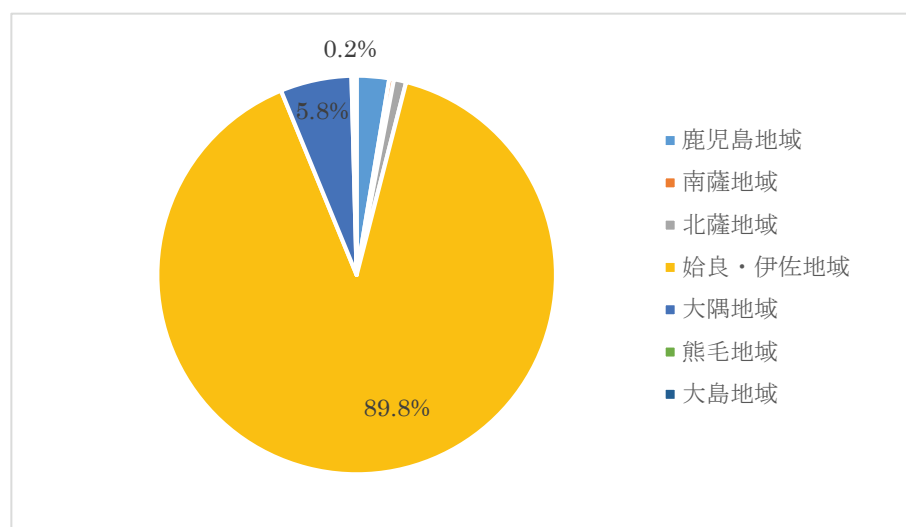


鹿児島県外の都道府県内訳



鹿児島県内地域別内訳 (人)

鹿児島地域	260
南薩地域	37
北薩地域	99
姶良・伊佐地域	8,936
大隅地域	572
熊毛地域	21
大島地域	20



新患数及び新患の紹介状持参率は、増加傾向でありH 30 年 8 月以降はさらに増加しております。月別外来来院患者数はH 29 年以降 1000 人以上の患者様に受診していただいています。

受診された患者様は、全国各地（帰省時の受診含む）から来院されていますが、特に隣県である宮崎県からの患者様が多い傾向にあります。さらに県内の地域別では、姶良・伊佐地域からが多く県内来院者の約 90% を占めています。これらの統計から考えられることは、当院が開院当初より目標としている地域に寄り添った医療を基盤とし、少しずつではありますが各県にお住まいの方へ専門医療の提供もできているのではないかと思います。

しかし、改善しなければならない点もあります。当院では初診の方は原則予約制となっているため、日数における患者様の待ち時間が負担となっている状態です。来春有床診療所から病院になるに伴い少しでも患者様の負担を軽減し、患者様一人一人に最適な医療を提供出来るよう誠心誠意尽くしていきたいと思ひます。

手術統計 〈平成26年10月～平成30年9月〉

医事課 早馬 佐代子

【手術症例数】

	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年									計
					1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
頸椎手術	5	72	46	39	2	5	10	10	3	4	3	3	5	207
胸・腰椎手術	7	137	161	169	12	16	17	12	15	13	23	18	13	613
MOB (他医での手術後再手術)	2	30	26	20	2	2	1	2	1	4	1	2	3	96
人工関節置換術 (膝・股)	3	26	45	52	4	3	5	7	4	6	5	7	4	171
ACL再建手術	0	3	3	0	2	0	0	1	0	1	1	2	2	15
腱板断裂手術	0	4	13	9	3	1	0	0	0	0	0	0	0	30
その他の 関節鏡手術	1	3	5	7	0	0	1	1	1	1	0	0	1	21
その他	15	108	127	127	6	4	9	11	12	10	12	14	9	464
計	33	383	426	423	31	31	43	44	36	39	45	46	37	1,617

※外来小手術（186 件）を含んでいます。

当院では、脊椎脊髄手術、人工関節手術、関節鏡手術を主に行っています。

全身麻酔が殆どで、上村裕一教授のご指導を得て麻酔専門医の先生方にご協力頂いております。特に、具志堅 隆先生、鶴丸健士先生、竹山正治先生には急患や緊急時にもご協力いただき、心より感謝申し上げます。昨年 10 月から本年 9 月までの 12 ヶ月間で、待機手術の全身麻酔は 352 例、緊急の全身麻酔は 15 例お願いし、無事手術を行うことができました。

この地域は整形外科の専門手術を必要とする患者さんが多くおられ、今回の病院化で少しは対応がしやすくなるかとは思いますが、更に手術が必要となることは確実です。麻酔科の先生方は日頃の本業がお忙しい中、当院に非常勤で手助けにきていただいておりますので恐縮するばかりですが、今後も共何卒ご指導ご協力をお願いできればと思っております。

術前内科評価は開業以来、中尾正一郎先生にご指導を受けています。合併症の評価や周術期の注意点なども詳細にお教えいただき、無事手術を行えてきました。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

術前の神経内科専門医の外来診療もお願いしております。神経疾患の鑑別は、頸髄胸髄の手術を検討する上で大変重要で、故井形昭弘先生がお導きくださり、高嶋 博教授にご指導頂いております。今年は、武井 藍先生にご協力お願いしております。（武井先生は私が大学時代大変お世話になった武井修治前教授のご令嬢で、1989 年に紫原のご自宅に、ある晴れた日曜日に伺い MS-DOS のパソコンを譲って頂いたことが懐かしく思い出されます。まだ、当時幼児だった藍先生と再会できたことは、何かのめぐり合わせと感動しております。）

理事長 井尻 幸成

業績

業績

口幅った言い方ですが、リサーチマインドを失わない専門職で有りたいと毎日思っています。新病院では動作解析装置の導入を行いリハビリテーションの研究を始めたいと考えています。また、継続しているプール教室では、Dr.Naumann のアドバイスをもらい、前向き研究のデザインを始めました。医局も村角先生、田邊先生とベテランが揃い、学会発表を予定しています。

今年の論文発表は、保健学科の榊間先生にご指導を受けている当院の上田 PT の共著 1 篇のみでした。来年からは、病院化に伴う職員の充実もあり、各部署で和洋を問わず論文発表を目指して頑張りたいと思います。私自身も力を入れ直して、地域の民間医療機関ならではの学問的業績を形に残せるよう努力したいと思っています。

- ・ 第47回 日本脊椎脊髄病学会 座長
- ・ 第48回 日本脊椎脊髄病学会 査読委員
- ・ Spine Surgery and Related Research (SSRR) 英文査読

1. 論文

- ・ 角園 恵

The effect of exercise frequency on neuropathic pain and pain-related cellular reactions in the spinal cord and midbrain in a rat sciatic nerve injury model.

The Journal of Pain Research 2018 Feb 7;11:281-291

Sumizono M^{1,2}, Sakakima H¹, Otsuka S¹, Terashi T¹, Nakanishi K^{1,2}, Ueda K^{1,2}, Takada S^{1,2}, Kikuchi K³.

1. Course of Physical Therapy, School of Health Sciences, Faculty of Medicine, Kagoshima University, Kagoshima, Japan.
2. Kirishima Orthopedics, Kirishima, Japan.
3. Division of Brain Science, Department of Physiology, Kurume University School of Medicine, Kurume, Japan.

J Pain Res. 2018 Feb 7;11:281-291. doi: 10.2147/JPR.S156326. eCollection 2018.

※角園理学療法士は、平成30年3月鹿児島大学大学院保健学研究科博士後期課程卒業、10月より九州看護福祉大学の助教として赴任しました。3年間、非常勤理学療法士として当院へ多大な貢献をして頂きましたことを改めて深謝いたします。

November 19, 2018

Peer Review Certificate

Manuscript ID: SSRR-2018-0072-CC

Journal: Spine Surgery and Related Research (SSRR)

Published by: The Japanese Society for Spine Surgery and Related Research

This is to certify that **Ijiri, Kosei** has reviewed the manuscript above for the Spine Surgery and Related Research.

Kazuhiro Chiba, M.D. Ph.D

Editor-in-Chief

Spine Surgery and Related Research

The Japanese Society for Spine Surgery and Related Research

E-mail: ssrr@kyorin.co.jp

URL: <http://ssrr-journal.jp>

看護部

外来だより

看護師長 池之上 夕佳里

【外来診療】

- ・ 脊椎・脊髄疾患 …………… 院長、田邊 史医師（常勤）
- ・ 肩疾患 …………… 谷口 昇医師、藤井 康成医師、前田 和彦医師
- ・ 膝疾患 …………… 山浦 一郎医師、福田 秀明医師
- ・ 神経内科疾患 …………… 武井 藍医師
- ・ 手術前の循環器内科 …………… 中尾 正一郎医師
- ・ 一般整形 …………… 龍 憲司医師、村角 恭一医師（常勤）
- ・ リハビリテーション …………… 藤田 虎夫医師、吉井 功医師、塗木 幸二医師、田中 啓吾医師

【看護部】（平成 30 年 10 月現在）

看護師 9 名（うち非常勤 5 名）

【実績】

鹿児島県看護協会 ファーストレベル研修 池之上 夕佳里

自己血輸血看護師 竹之内 エイ子

名古屋赤十字病院見学

【5 年目を迎えるにあたって】

今年から常勤医が増え、外来患者数は増加しハード面が追いついておらず患者さんにはご迷惑をおかけすることが多い現状です。

現在も新患は予約制であり、直接来院いただいた患者さんも断らざるを得ない状況もあり非常に心苦しく思ってます。

診察室が増えることでこれらは少しでも解決できるのではと考えております。

現在、来年の病院化に向けて準備中ですが、外来部門はクリニックで担っていきます。

自分たちも初めのことであり戸惑いはありますが、病院と連携し患者さんが安心して治療や通院していただけるようにしていきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。



病棟だより

看護師長 塩入 隆二

【病棟概要】

- ・ 病床数：19 床
- ・ 職員数
看護師 16 名、准看護師 6 名、看護助手 3 名、病棟医事 3 名
病棟専属理学療法士 7 名
病棟専属作業療法士 1 名
- ・ 看護体制 10 対 1 看護



【5 年目を迎えて】

病棟は主に手術をされる患者様が入院されています。周手術期の急性期からリハビリをして回復していかれる過程の中で、看護の関わりを通して、目に見えて患者様と共に回復を実感できることが、看護師にとって励みになり看護のよろこびにつながっています。

病床数が現在 19 床のため手術後、早期退院を余儀無くされ近隣の病院様へ転院をお願いすることが多々あります。その中でも一人一人の患者様との出会いを大切にし、患者様の声に耳を傾け、ケアに努めています。しかし、患者様によっては早期退院により満足いくことができないことも現状にありますので病院化に伴いそれを改善できることに喜びを感じています。

今後も、看護部内での伝達、他部署との連携を行い、繋がりのある看護を提供できるよう取り組んでいきたいと思ひます。

病院化に伴い看護の専門性を高め継続できる看護実践を目指し、お互い学ぶことの大切さを自覚しキャリアアップできるよう支援をしていきます。そして、看護師一人一人のライフスタイルを大切にしたい勤務形態も相談しながら行い、看護師をとぎれなく続けられる職場を目指します。

手術室だより

手術室主任 澁谷 菜美

私たち手術室は、医師 3 名（脊椎：2 名、関節：1 名）看護師 6 名（常勤：5 名、パート：1 名）看護助手 1 名、放射線技師 1 名の計 10 名で日々業務を行っています。今年は 4 月より医師が 1 名、看護師が 2 名、7 月より医師が新たに 1 名加わり活気あふれる手術室となっています。

手術内容としては開院当初より脊椎手術が中心となっており、昨年と比較し（H29・30 年の 1 月～9 月を比較）脊椎 20%、関節 30%、関節鏡手術（膝・肩）%、その他（外来 OP など）% 低下しておりますが、全体的に 1 割手術件数が増加している結果となりました。（詳細は下記図表を参照ください。）



今年は昨年に引き続き教育及び情報共有に力を入れ活動しています。スタッフ同士の知識の共有を目的とし、個人の持っている知識や技術を他者へ伝達できるよう毎月 1 回勉強会を開催し、さらに 9 月よりリーダー業務を加えることにより責任感を持ち仕事に挑むよう業務改善を行いました。そのことにより、日々の業務にメリハリをつけられるようになり、以前よりコミュニケーションを図ることが出来るようになりました。徐々にではありますが、円滑に作業が進めるようになってきていると実感しています。今後の課題としては、スタッフのスキルアップを目標に病院全体のスタッフと連携を図り、患者様が安心して手術が挑めるよう、また、質の高い手術が提供できるよう日々精神していきたいと思ひます。

【平成 29 年 1 月～9 月と平成 30 年 1 月から 9 月の手術件数】

手術名	H 29 年 1 月～9 月	H 30 年 1 月～9 月
脊椎手術		
・頸椎手術	35 件	45 件
・胸・腰椎手術	130 件	139 件
・MOB	15 件	18 件
	計 180 件	計 202 件
人工関節置換術（膝・股）	35 件	45 件
関節鏡手術		
・ACL 再建術	0 件	9 件
・腱板断裂手術	5 件	4 件
・その他	5 件	5 件
	計 10 件	計 18 件
その他（外来 OP など）	62 件	49 件
合計	287 件	314 件

リハビリテーション部

リハビリテーション部だより

リハビリテーション部 藤川 寿史

平成 30 年度は理学療法士の新人 3 名と作業療法士 1 名が入職し、リハビリテーション部は総勢 21 名（理学療法士 17 名、作業療法士 1 名、助手 3 名）となりました。非常勤の理学療法士 8 名とともに、病棟・外来患者のリハビリテーション業務にあたっております。

本年度は病院化を控え、今までの 3 年間で築いてきた体制をより強化する一年となりました。

まず、待望であった作業療法士の入職により、入院患者の上肢機能障害や ADL 能力の低下、外来での手の外科疾患等に対し今まで以上に充実したリハビリテーションの提供が可能となりました。特に、病院化に向けては入院患者の術後早期からの ADL 能力向上に対するリハビリテーションが重要であると考え、作業療法士の専門性を加えた病棟担当チームとしてリハビリテーションを提供する土台を作ることができました。また、病棟担当チームとしては手術部位別（頸椎・腰椎・股関節・膝関節）に入院期間のリハビリテーションに関するパンフレットを作成し、患者と目標・目的を共有し限られた入院期間でのリハビリテーションをより有効なものとする取り組みを進めております。

外来ではこれまで以上にスポーツ分野における取り組みが充実した一年となりました。昨年 2 月には今村総合病院の前田和彦先生にご協力いただき、霧島市の小中高校生の野球選手を対象に投球障害予防教室を開催しました。それに合わせて選手のパフォーマンスチェックと自主トレーニングメニューを盛り込んだ当院独自の「Baseball conditioning book」を作成し、4 月からは毎月一回、チームごとに投球フォーム指導コースもスタートしました。初めての試みでありまだ手探りしながら進んでいる状態ではありますが、スポーツ障害ゼロを目標にした取り組みが少しずつ充実してきております。県高校ボート競技や国分中央高校野球部でのトレーナー活動も継続して実施しており、ボート競技では今年度もインターハイ、国体へと帯同することができました。また、10 月には霧島スポーツまつり 2018 に正しい捻挫・打撲の対処法と肩こり & 腰痛改善法という内容で参加する機会をいただき地域のスポーツイベントに関わることができました。

また、プール教室も毎月 2 回の開催を継続しております。プール教室はスタートしてから 3 年を超え、参加者からも毎回好評を得られるようになりましたが、更なるレベルアップのため 10 月には 4 回目となるドイツでの水中運動療法の研修に 3 名の理学療法士が参加しております。今後は水中での運動の効果を明確にしながらより個別性の高い運動プログラムの作成を目指し、対象となる障害や疾患を増やしていきたいと考えています。

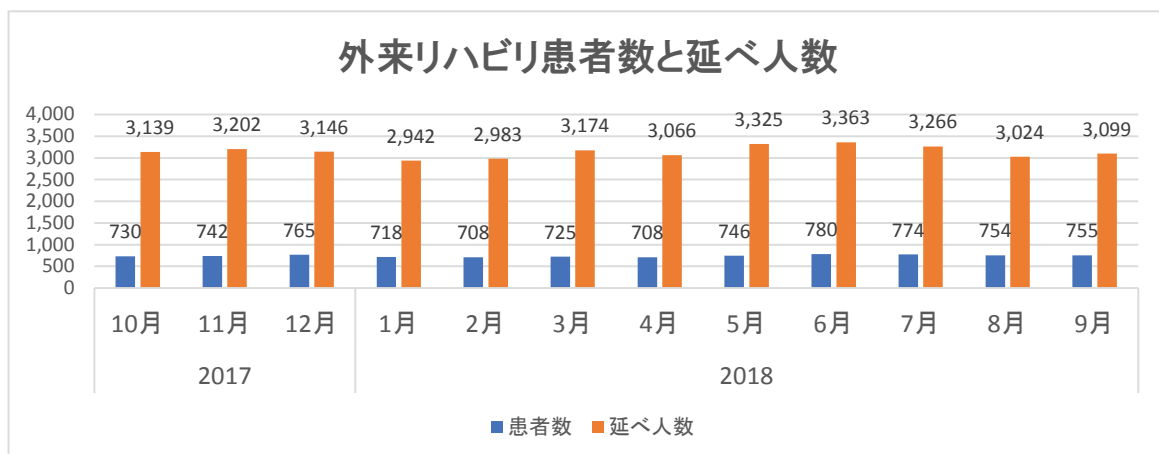
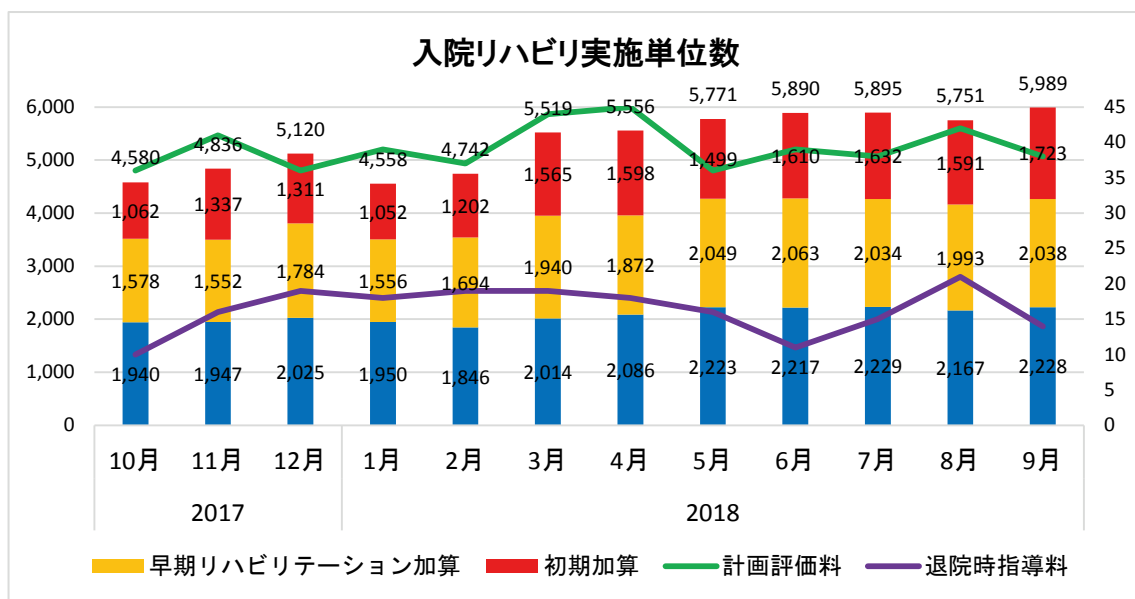
その他に、病院化に向けた取り組みとして整形外科疾患の保存的治療から、術後のリハビリテーション、スポーツ障害のスポーツ復帰まで対応できる自主トレーニングメニューの作成と運用方法の検討を行っています。上肢・体幹・下肢・病棟の各グループで作成した自主トレーニングメニューの目的や方法をそれぞれプレゼンテーションしながら共有していく過程で



スタッフの技術向上と共通理解を進め、病院化後の外来・入院間のシームレスなリハビリテーションの提供へ繋げていきたいと考えています。

学会発表としては九州理学療法士・作業療法士合同学会へ2演題、鹿児島県理学療法士学会へ2演題の発表を行いました。九州・鹿児島地域での学会へは毎年演題発表を継続して行えています。今後、全国規模やより専門性の高い学会、海外の学会への参加を増やしていくことが目標となります。また、学会発表での取り組みを論文投稿へとつなげていくことも今後の課題となります。

来年2月の病院化後、リハビリテーション部は病棟チームと外来チームに分かれての活動が増えていくと考えられます。それぞれがより専門性を高めていけるようお互い切磋琢磨し、連携、協力し合いながら地域の方々の健康に役立てるよう、そして日本や世界に向けて新たな情報を発信していけるようリハビリテーション部を目指して一歩ずつ進んでいきたいと思えます。最後になりますが、日頃よりリハビリテーション部の活動にご理解、ご協力をいただいております院内・院外すべての方々に感謝申し上げますとともに今後も我々の活動も温かく見守っていただき時には厳しくご指導いただきますようお願い申し上げます。



放射線部

放射線部だより

診療放射線技師主任 松永 大和

【はじめに】

放射線診療は機器の進歩や情報技術の発達に支えられ、臨床医療における重要性を増し続けています。最適な診断画像を提供することに努めて日々研鑽を積んでいます。

今後の取り組みとして、診療放射線技師として知識を磨き続けることは、医療サービスの向上に於いても必須であり患者さんへの還元に繋がると考え、各種モダリティーによる専門の認定技師取得を目指していきたいと考えています。



放射線部は現在、診療放射線技師4名で業務を行っています。

一般撮影検査やCT検査、MRI検査など外来患者数の増加に伴い、総数件数の増加となっており、各々確認をしながら、医療事故がないように心掛けていますが、より安全でマニュアル事項の徹底・見直しなどをしていきたいと考えています。

超音波検査では、下肢血管検査は術前検査の大事な役割であり、責任感を持ち検査を行っています。

また、スポーツの取り組みとして、始良・霧島地区の中学生野球部に対して野球健診を行っています。内容は、理学療法士による投球指導や筋力、柔軟性の評価などで、診療放射線技師としては、超音波検査による肘関節の画像評価を行っています。超音波検査ではレントゲンに写らない微小病変を発見でき、早期予防・早期治療を促すことができます。主にAOL損傷や断裂、離断性骨軟骨炎(OCD)の描出を目的に行っています。また、健診に留まらず、外来に来院された患者様の超音波検査にも力を入れています。足関節の内返し捻挫や肉離れ、肩関節の検査などを積極的に行い、ストレス撮影やMRI検査を行う前のスクリーニング検査として取り入れています。今後検査部位を増やしていき、低被ばくかつ高精度の画像診断ができるよう邁進していきたいと考えています。

手術日は、主に術中イメージ操作や術後撮影を行っており、手術のサポートを行っています。

以下が当院にあります装置一覧です。

【装置・設備関係】

	装置名	メーカー	機種名
①	一般撮影装置	Canon	DREX-BX6 8X2
	FPD	Canon	CXDI-701
②	MRI	Canon	Elan 1.5 テスラ

③	CT	Canon	Alexion 16列MDCT
④	骨塩定量	日立 アロカ	二重エネルギー骨X線吸収測定
⑤	透視装置	Canon	BLF-15B
⑥	超音波装置	日立 アロカ	ARIETTA 70
⑦	OPE室(外科用イメージ)	Canon	Crearscope
⑧	X線ポータブル装置	シーメンス	HYBLED XP
⑨	超音波装置	GE	LOGIC e

H30年9月にGE社製の最新超音波装置が導入となりました。

【業務実績】〔平成29年10月1日～平成30年9月までの統計〕

一般撮影検査	総件数	7253件	1日平均	25件
MRI検査	総件数	1856件	1日平均	7.5件
CT検査	総件数	898件	1日平均	3.7件
骨塩定量	総件数	623件	1日平均	2.5件
透視検査	総件数	975件	1日平均	4件
超音波検査(下肢・四肢)	総件数	60件		

昨年との総数で比較しますと

一般撮影検査は、1534件 増加↑

MRI検査は、356件 増加↑

CT検査は、185件 増加↑

透視検査は、50件 増加↑

となりました。

【学術活動・認定等】

- ・霧島始良地域冬季研修会 参加
- 霧島始良地域研修会等 世話人となる
- ・第74回 日本放射線技術学会総会学術大会 参加
- ・第44回 日本整形外科スポーツ医学会学術集会 参加
- ・第12回 九州放射線放射線医療技術学術大会 参加・発表
- ・救急撮影技師認定技師 認定
- ・医療情報技師 認定
- ・名古屋第二赤十字病院研修 等



事務部

事務部だより

医事課主任 末永 明子

1. 概 況

入院医事	3 名	外来医事	4 名	
医療クラーク	3 名	医療コンシェルジュ	1 名	
統計・在庫管理	1 名	総務・経理	1 名	計 13 名

2. 実 績

- ・医療法人光智会のぼり病院見学
- ・有床診療所入院基本料1 医師配置加算1 取得
- ・日本赤十字社名古屋第二赤十字病院見学
- ・診療報酬請求業務
- ・外来受付及び窓口会計業務、診療予約受付
- ・診療データ入力、診療費の定期請求及び退院時請求
- ・未収金回収及び発生防止対策
- ・医師事務作業補助業務
(外来診療補助、文書作成補助)
- ・コンシェルジュ業務
(アンケート・案内・お茶サービス)
- ・院内薬剤及び物品在庫管理業務
- ・経理業務全般
- ・施設基準届出業務

3. 今後の課題

平成 30 年は人事異動を行いました。それは業務のマンネリ化による仕事への意欲の低下を防ぎ、新しい仕事に挑戦するという意欲、新たな知識や経験が得られるという期待感から社員のモチベーションを高め、活性化させることが目的でした。更には、業務内容を見つめ直し、効率化を図ることが働きやすい環境を作る一つであると考えました。今では業務内容にも慣れ、戦力となってきています。

また、受付に医療コンシェルジュを新たに配置し、以前から問題となっている待ち時間対策として、お茶のサービスや雑誌の管理など患者サービスを向上いたしました。委員会では、年に2回の外来患者アンケート実施や退院時もすべての患者様対象に開始いたしました。いただいた貴重なご意見により、新たに気付く事も多く、患者様に選んでいただける病院づくりに病院全体で取り組むことができました。

来年はいよいよ病院開院です。新しく始めることばかりですが、スタッフ全員で知恵を出し合い、乗り越え、患者様にとって良い病院になるよう努力いたします。



總
務
課

総務課だより

総務課主任 市成 栄子

総務課業務内容報告

【人事関係】

採用関係書類管理、職員名簿管理、保険証、扶養関係管理等、産前休・産後休、育児休暇手続き等を社会保険労務士の鉾之原先生と連絡をとって行っています。

今年は、病院化に向けて新入職員が多く、毎月数人の採用の準備に追われています。現在も来年2月の病院化に向けて看護師はじめ元気なスタッフを絶賛募集中です。

当院は若い職員が多く、結婚・出産とおめでたいイベントが多い一年でした。これは来年以降もしばらく続きそうです。



【経理関係】

毎日の外来・入院金の経理処理を行っています。

給与関係では出勤簿、残業チェックを総務課非常勤の吉満康子さんで行い、社会保険労務士の鉾之原先生にデータを送り毎月の給与計算を行っています。毎月の給与日に間に合うよう月末から月初めにかけて必死で出勤簿のチェックを行っています。職員の皆さんにお願いです。出勤簿の管理は自己責任です。訂正のないようにきちんとつけてください。この時期は遅くまで残業になるので、当直の看護婦さんのところに戸締りの鍵を借りに行くと、思いもかけない時間帯に不意に声をかけるため、驚かれるのが恒例です。

日常業務に必要な物品の購入手配も行っています。物品の購入申請書には各部署長である部長、主任の承認（印鑑）が必要です。職員の皆さん宜しくお願いします。毎木曜日文注日ですが、至急の注文もあります。欠品で業務に支障が出ないよう心掛けています。

【催事関係】

来年2月1日の「医療法人術徳会 霧島整形外科病院・クリニック」開院に向けて、大きなイベントを2つ控えその準備に追われています。

①平成31年1月13日と26日の2日、「医療法人術徳会 霧島整形外科病院・クリニック」開院記念の内覧会と「感謝の会」を行います。27日には一般向け内覧会を行います。

日頃お世話になっている先生方、患者様、業者の方に新しく開院する施設をお披露目する晴れの日です。精一杯おもてなしできるよう頑張ります。

②平成31年2月9日（土）『Kagoshima Spinal Cord Club 2019』を「みなみホール」（南日本新聞社4階）にて開催予定です。

海外から2名、国内から3名の脊椎脊髄に関する脳神経外科、整形外科、リハビリテーション科各分野の著名な先生方にご講演をいただく予定です。

院長先生が講師、座長の先生方にお声かけし、病院職員が手分けして準備を行っている手作りの勉強会です。どのような会になるのか今から楽しみです。

榮養管理部

栄養管理部だより

管理栄養部 石原 幸代

今年の栄養科（といっても栄養士は私一人ですが）の目標に、自分の知識を向上するという事を挙げていました。現在は空いた時間で行っている栄養相談を、病院化した際には積極的に行っていきたいという思いから、栄養士会を通して知ったセミナーや研修会に、休日を利用してできるだけ参加してきました。

話が少しとびますが、今年8月にヘルスケア教室で『骨粗鬆症予防に効果的な食事について』という内容でお話しさせて頂いた際に、参加者のほとんどの方から質問をして頂きました。中でも『テレビでやっていたんだけど、』という出だしから始まる質問が多かったように思います。今や、テレビや雑誌等、メディアで食品の事を取り上げない日がないくらい、食事を通して健康に対する意識が高まっています。たくさんの情報が溢れる中、皆さんに正しい知識をお伝えするために、研修でインプットしたことを、栄養相談でアウトプットできるよう、これからも邁進して参ります。



ヘルスケア教室



病棟での集団栄養相談

活動報告

医療法人 社団 我汝会 えにわ病院研修

看護部 折田 秀和

平成 30 年 9 月 2 日～9 月 5 日まで北海道、恵庭市にある医療法人 社団 我汝会 えにわ病院へ手術見学に参加させて頂きました。えにわ病院では主に手術見学と手術室担当看護師の取り組み等を拝見させて頂きました。えにわ病院は整形外科に特化しており、脊椎、膝関節、股関節、上肢、下肢の疾患を年間総手術 2500 例行っております。手術室は 4 室あり、クリーン度を保つために 3 重の構造と感染対策にも力を入れています。今後の当院の病院化に向けての取り組みのお手本となることが多く、スタッフ間の連携、個々の役割が明確化、院内勉強会を定期的 to 実施し知識の共有を図り、全体のレベルアップにつなげているようでした。現在、当院でも定期的な勉強会を実施し、術前のカンファレンスを行いチーム内でディスカッションしています。今後として術後の患者様の訪問も行い、術前、術中、術後の評価を行い問題解決に向けて日々精進していきたいです。

副院長 村角 恭一

恵庭病院での病院、手術研修は外回りだけでなく、実際に手洗い、手術にも参加させて頂き、大変有意義なものとなりました。今回は全国的にも高名な病院での貴重な研修機会を頂きまして、ありがとうございました。



リハビリテーション部部长 宮崎 雅司

えにわ病院を知ったのは、10 年前の学会でした。現科長の石田先生の口述発表を学会会場で拝聴しました。内容は腰椎椎間板ヘルニアの術後患者に対する理学療法の効果についての報告でした。驚いたのはその研究デザインでした。術後理学療法の必要性が叫ばれる中、理学療法介入群と未介入群を作りその経過を追って再発率の差を検討していました。会場は満員、熱気に溢れ立ち見の人もあったと記憶しています。そんなことをする病院があるのか、非常に驚きいつの日か見学にいきたいと思っていました。

そして巡ってきたチャンス、えにわ病院に興味津々に病院見学に向かいました。今回の見学

テーマは、①周術期の脊椎手術患者に対する理学療法の見学、②腰椎手術後の早期理学療法の実際、③術後早期からの物理療法、④リハビリテーション科の以上4つを見学しました。

入院日数を決められ、早期退院しかも多くは自宅退院を目指す病院にあって、積極的なリハビリテーションが必要とされており、様々な工夫がなされていました。早期離床、退院後に向けての指導を徹底するため、チーム別でのカンファ、病棟スタッフとのカンファ、回診や電子カルテ上での情報共有などコミュニケーションを非常に細やかにとっていました。またそれを支える体制も確立しており、また技術や知識の共有するための教育も大変充実している印象でした。病院の掲げるコンセプトで、“Academic”、“Focused”、“Responsible”をしっかりと体现しており、今後目指すべき病院と強く感じました。

遠く離れた北海道の恵庭市でありながら、日本屈指の専門病院として発展しているえにわ病院。少しでも追いつけるよう頑張っていきたいと思います。そして、快く見学を受け入れて頂きました木村院長、石田科長を始めとするリハビリテーション科の皆様にご心より感謝申し上げます。また最後に、研修終了翌日に起きた北海道胆振東部地震で被災された皆様にご心よりお見舞い申し上げます。

整形外科部長 田邊 史
リハビリテーション部 下村 珠美
看護部 澁谷 茉美

平成30年10月5日より医師：田邊 Dr、看護師：澁谷 NS、理学療法士：下村 PT の3名で北海道にある「医療法人社団我汝会 えにわ病院」様へ研修に第2班グループとして行かせていただきました。

えにわ病院様は昭和62年開業、病床数150床あり、整形外科に特化された病院で、手術件数も多く、年間2700件を超える手術を行っています。

私たちは、10月5日のお昼ごろ病院に着き、早速脊椎手術の見学（1椎間のTLIF）やリハビリ室の見学をさせて頂きました。手術室では脊椎・関節を4区別しておりそれぞれの手術が円滑に進むようスタッフ同士の連携が図れており、毎週火曜日と金曜日には術前・術後カンファレンスを行っており、患者様の情報共有を行っていました。また、リハビリテーション科は、平成28年11月に増・改築され開放感のあふれるリハビリテーション室となっており、スタッフ同士がどのようにリハビリを行っているか把握できるようになっていました。また、科内の組織体制が構築されており、多様な研修や勉強会も実施されており、高度なリハビリテーションが行われている感じが感じ取れました。

翌日より本格的に研修を行う予定であったため、初日の夜は、期待と研修へのやる気が満ちてあふれていました。しかし、H30年10月6日3時7分北海道胆振東部地震が発生。夜中であり、全く予期せぬ事態に驚愕するとともに初めての震災を経験し改めて震災の恐ろしさを感じました。私どもは千歳市に滞在しており、震度6弱を体感しました。初めての震度6は想像以上の揺れとともに、身動きが取れない状態に私自身、漠然としていました。地震の影響は強く、災害範囲も大きかったため、残念ながら研修は中止の運びとなりました。千歳空港も発着不可能であったため、鹿児島へ帰郷する約3日間停電を経験しました。停電により、交通機関の停止、携帯電話の充電など様々な電子機器が使えなくなり、震災状況の把握や交通の回復目途など知

るすべもなく無力感を味わいました。改めて電気の大切さに気付かされ、被災に合うことにより精神的にもダメージを負い、一刻も早い復旧を願うばかりでした。被災に会い、人との繋がりが助け合いを痛感し、被災地での生活を少しばかりではありますが、経験することで被災者ならではの大変さや苦勞を知ることが出来ました。

被災により研修ができないことは残念でしたが、被災に会った時の対応、病院での連携、地域への活動など今以上に勉学に励み、いつ何時被災に合うか分からないため、訓練しておくことが大切だと痛感しました。今回、えにわ病院様への研修が行えなかったため、いつの日か叶うならば研修の機会を頂ければと思います。

被災に合われた方々には一刻も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。



名古屋第二赤十字病院研修

医事課 末永 明子

病院規模は全く違いますが、医師、看護師、事務が専門性を発揮し、活き活きとしていました。JCIを取得され、まさにチーム医療を実践されており、委員会活動やデータ分析結果を経営に生かすなど先進的な医療機関でした。マニュアルや業務ルールも適宜ブラッシュアップされており、管理体制の強さを感じました。

当院では、まずは実践できるマニュアル作りと院内掲示の見直し、入退院管理（平均在院日数の短縮）への参画を行いたいと思います。

医事課 上木崎 愛実

私は主に医事の運営についてのお話を伺いました。現在勉強中であるため一度では理解しがたい内容もありましたが、たくさんの学びがありました。そしてスタッフ皆様の心配りの素晴らしさが印象深く残り、たとえどんなに接遇の素晴らしい人が揃っていても、たった一人でも不適切な対応をするような人がいると、それが病院のイメージとなってしまうので、私がその一人になることがないように日々意識し行動したいと改めて思いました。

私は研修にご一緒させていただくことが初めてで不安も多々ありましたが、内容の濃い日々を過ごすことができました。貴重な経験をありがとうございました。

看護部 塩入 隆二

9月18日から2日間、名古屋第二赤十字病院に研修に行かせていただきました。

地下鉄、八事日赤の駅と直結しており交通の便も良く、病床数は800床を超え職員数2000人規模の大病院でした。

手術室は13室あり年間9000件の手術を行っており、手術機器の準備を滅菌センターで委託業者が行うなど規格外なことばかりで衝撃を受けました。

整形外科の病床数は48床。入院患者様の5割は緊急入院で、そのためベッド回転率を上げる必要があり脊椎の固定手術に関しては手術後1日目で起立させ8日目に退院となっていました。

第二赤十字病院では早期退院できるように予約入院患者様を入院前に把握し、問題解決に早期に着手すると同時に病床の管理を合理的に行うための患者支援にも取り組んでいました。

看護部長さんの、患者さんご家族との一期一会を大切に多職種で協働し、患者さんも職員も笑顔になれる病院・看護部を目指すという言葉が印象的でした。

今回はこのような貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

看護部 池之上 夕佳里

私は、主に手術室・中材、病棟、ほかに外来と地域連携室の見学をしました。この病院は日本に26施設しかないJCI認定病院の一つであり、職員のモチベーションは高く私にとってすごく刺激になりました。物品管理の徹底、入退院連携や近隣の医療機関との連携、看護部の組織づくり、リハや他部署との協働、これら学んだことを活かせるように努めていきたいと思います。

診療放射線部 松永 大和

平成30年9月18日から20日まで名古屋にあります第二赤十字病院で放射線室やOPE室などを研修させていただきました。放射線技師の数が37名、放射線科医は11名でした。

一般撮影室は5台、MRIは3台、CTは4台あり、マンモグラフィ、核医学、放射線治療など最新機器が揃っていました。室内も広々としており生理整頓を心掛けていて、清潔に保たれていました。

まず、医師からレントゲンのオーダーがでて、受付から撮影するまでの流れなどを見させていただきました。救急患者受け入れも多く、救急室横に一般撮影室とCT室が並列してあり迅速に対応できるようになっていました。救急患者をバックボードごと撮影できるような工夫もなされていて、とても参考になりました。医療ミスを防ぐ取り組みとして、撮影した技師が、異常所見があった場合に電子カルテ上で緊急画像報告をするシステムがあり、これにより医師との連携をとっているとの事です。

紹介用CDなどは、全自動で作成可能とのことでした。

画像取り込みは技師が対応していました。

OPE室は、コード類すべて壁や天井からの取り付けとなっていました。

体を温めるウォーマーは体の下にあり温風が上に上がり温める方法をとっていました。

休憩室では全13部屋確認できる大型モニターや内視鏡動画を確認できるモニターなどありました。

術中モニタリングは検査技師が行っており、頭部刺激は皿電極を使用、モニタリング箇所は12チャンネルすべて針電極でした。

病院の規模は大きかったですが、良い所は真似していきたいと思いました。

今回の研修を今後の病院化に向けて貢献できたらと思っています。

リハビリテーション部部长 宮崎 雅司

名古屋第二赤十字病院、超急性期病院で年間救急車の受け入れが1万件に迫る病院でした。超急性期となると入院期間が短くなかなかリハビリテーションが難しいかと考えていましたが、患者さんを中心とした病院の組織が大変参考になりました。

今回9月18日から19日の2日間、名古屋市にある名古屋第二赤十字病院へ研修に行きました。今回の見学は、井尻院長を始め、看護部、医事課、放射線科、リハ部と多くの部門から見学へ参加しました。病院での診療の見学だけでなく、運営等も見学させて頂きました。名古屋第二赤十字病院は、高度急性期病院ということで、年間の救急車受け入れが1万件近く、患者さんの半数が救急での入院とあり大変多忙な病院でした。

また常に救急患者さんの受け入れをしないといけないため、患者さんを自宅退院もしくは他院へ転院を安全にかつ安心してもらうため、多くの工夫をして地域の救急医療を担っていました。特に私が興味を持ったのが、患者支援センターと地域医療連携センターでした。

患者支援センターは、患者さんのために細やかな心配りと介入で患者さんの不安に寄り添うシステムで大変参考になりました。また地域医療連携センターでは、地域における病院との連携を図り、患者さんを地域で診るという連携が勉強になりました。

リハビリテーション科もそのセンターと連携をとるように患者さんと関わり情報を共有する体制が出来ていました。国際病院基準を取得していることもありましたが、安全や感染に対する意識が高く大変参考になりました。

また超急性期病院のリハビリは早期離床を積極的に行っており勉強になりました。特に評価を行ってからの動作指導、生活指導が丁寧にされており今後の病院化の際に、積極的に取り組んでいきたいと感じました。

赤十字病院は災害支援も行っており、災害への意識が高くリハビリテーションスタッフも災害時にはどのようなことをするか、ということを定期的に訓練しており桜島や霧島連山のある当院

でも学ぶことが多かったです。災害時でも地域に頼られる病院となっていきたいと感じた見学でした。見学を快く受け入れて頂いた、リハビリテーション科の細江技師長をはじめとするリハビリテーション科のスタッフの皆様、本当にありがとうございました。そして佐藤公治病院長、安藤部長を始め、お邪魔しました各部署の皆様、改めて感謝申し上げます。



船橋整形外科病院・クリニック研修

リハビリテーション部 藤崎 友輝

日 時：3月8日～10日

場 所：千葉県 船橋整形外科病院・クリニック

参加者：理学療法士4

・感想

私は今回、船橋整形外科にて施設見学・業務体制等の確認やオーバーヘッドスポーツ治療の実際を見学し、治療技術・知識を深めることを目的に研修を行った。そのため3日間の研修ではスポーツ班の治療見学をメインに行った。実際に一流アスリートの治療を行っているセラピストの治療見学・質疑応答では基本的な野球選手の診方を理解するだけでなく、今の自分に不足している診方・考え方が明確となった点が一番の収穫となった。また院外活動の詳しい内容も聞くことができ今後の参考になった。3日間の研修は日本トップレベルの整形外科でのリハビリ内容、施設の雰囲気を感じることができ刺激的であった。これからの自分にとって確実に意義のある研修であり、モチベーションに繋がっていくと感じた。

・今後について

今回の研修で学んだ内容を日々の業務やトレーナー活動に反映すること、スポーツ選手におけるリハビリ内容のレベルアップ。また今後リハビリ室も拡大しトレーニングスペースを確保することができるため、研修で確認した業務・勤務体制を参考の一つとし生かせるようにしていきたい。

リハビリテーション部 増田 誠

平成30年3月8日から10日までの3日間、当院理学療法士の中井、藤崎、水口、増田の4人で千葉県にある医療法人紺整会 船橋整形外科病院、船橋整形外科クリニックに研修に行かせていただきました。

病棟で勤務する自分は研修の大半を船橋整形外科病院で病棟リハビリテーションの見学をさせていただき、早期離床や退院へ向けたアプローチ方法、動作練習の時期、周術期管理など学ばせていただきました。当院のシステムやプロトコルの違いを実際に目で見て体験することができ、幅広い考え方や医療方針を知ることができました。なかでも術直後の疼痛コントロール方法や早期離床を行うことの重要性や注意点など、当院でも力を入れている点について改めて再確認することができました。年齢に関わらず、手術を受けられる方においては早期離床・退院を望まれる方も多くいらっしゃるので、今後の後療法の参考にさせていただきたいと思います。

船橋整形外科クリニック見学においては、混雑する外来業務の中、時間を見つけては症例の説明や手技の説明、その意味などを教えていただき、普段病棟で勤務する自分としては非常に新鮮な時間を過ごさせていただきました。特に筋膜マニピュレーションに対する考え方につい

ては、効果判定や即時効果をその場で拝見することができ、自分の手技の中でも新たな可能性として広がる考え方で、今でも大きな衝撃として心の中に残っています。

また、リハビリテーションのみではなく、新人教育や学会発表など、自分たちの研鑽に繋がるシステムも紹介していただきました。まだまだ霧島整形外科としては4年弱の自分たちにとって、一つの方向性となる内容を学ばせていただくことができました。

今回研修を行わせていただいた事で、自身に繋げ取り入れていけること、反対に改めて考えなければならないことなどを学び、非常に貴重な経験をさせていただきました。この研修で得た知識や経験を、しっかりと当院の患者様、そして自分自身にも還元していけるように取り組んでいきたいと思います。

リハビリテーション部 中井 雄貴

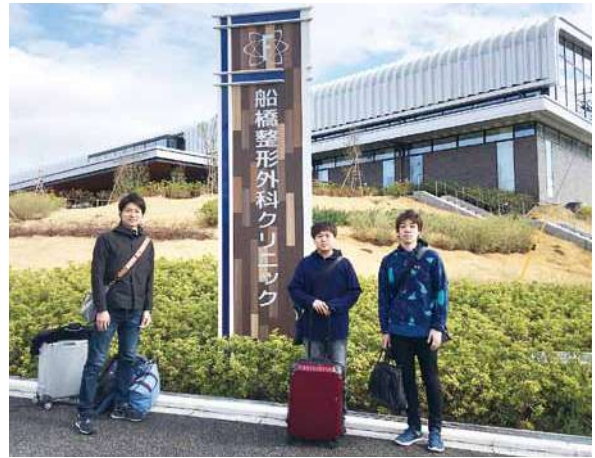
今回、船橋整形外科クリニックの理学診療部・スポーツリハビリテーション部見学に3日間研修に行かせて頂きました。

船橋整形外科は日本でも有数の整形外科疾患手術件数を誇り、理学療法士も術後リハビリに対応すべく月々の術後状態を個人ではなく部としてデータ管理するシステムが確立していました。アスレチックトレーナーも常駐しており、理学療法士と役割分担しながら競技力の高い患者さんに対して質の高いアスレチックリハビリテーションを実施していました。研究については、以前は基礎研究もしていたけれど臨床業務と並行して効率のことも考慮して臨床研究や介入研究を中心に行っているとのことでした。勉強会については大小さまざまな勉強会をしており、座学も大事だが実技やディスカッション形式の勉強会を重視しているとのことでした。船橋整形外科というトップクラスの整形外科の環境とシステムに圧倒されました。しかし、患者さんと向き合って治療に真摯に取り組むという姿勢は霧島整形外科も負けていないと感じました。スタッフ同士で話し合いながら今後の霧島整形外科の発展に繋げていきたいと思っています。

リハビリテーション部 水口 寛之

今回の船橋整形外科研修では、上肢疾患をメインに見学をさせていただきました。

疾患としては、肩関節周囲炎、肩関節拘縮、SLAP 損傷、ARCR 術後、上腕骨外側上顆炎、手術として、関節鏡下腱板修復術、三幡法（上方関節包再建術）、人工肩関節、リバーズ型人工肩関節（RSA）等を見学させていただきました。仕事形態や教育方針など色々なことを学ぶことが出来感謝しております。見学で学ばせて頂いたこと、教えて頂いたこととして、肩関節周囲炎に対しては、運動、内服、注射：ステロイド注射（肩峰下滑液包（SAB）、関節包内に注射行い、炎症所見を見る）内服：トラムセット処方、物療：アイスパック、高周波。縮に対して、有酸素運動、骨盤帯周囲、頸部、腹式呼吸などの交感神経低下させる運動、腰背部アプローチ。肩疾患に対して特に獲得しておきたい可動域として、内旋、内転、拳上確保できるように介入していく。など他にも知らないことがたくさんあり、とても充実した研修を送ることが出来ました。これから臨床で生かしていくと共に、今回の研修を参加させて頂いたことに感謝し、日々仕事に励んでいこうと思います。



2018 重症度、医療・看護必要度評価者 院内指導者研修

看護部 塩入 隆二
加治木百代
今村真由美
澁谷 茉美

8月26日、宮崎県看護協会で行われた、重症度、医療・看護必要度評価者 院内指導者研修に看護師4名で参加させていただきました。

事前に学習・演習・試験等の課題を行ってからの研修となり、久しぶりの学習や試験で良い緊張感のもと挑むこととなりました。

研修当日は午前午後共に講義を受け最後に演習となりましたが、看護必要度の他にこれからの医療サービス提供体制の考え方等の講義もあり学ぶことができました。演習では正しく評価することは繰り返しの演習が評価の精度を上げられることを学びました。

今後は、当院の病院化に伴い事前に研修参加メンバーにて、看護スタッフに伝達講習会を行い学んだことを病院全体に広げ活用していきたいと思います。

今回は貴重な研修に参加させていただきありがとうございました。(塩入)

プール教室

リハビリテーション部 下村 珠美

プール教室が始動してから3年が経過しました。平成28年1月から開始し、当時は参加人数8名からのスタート。現在は毎月第2、第4木曜日の月2回、教室開催を継続しており、平均15名程度の方に参加頂いております。プール教室スタッフも今年から理学療法士2名が新メンバーで加わり、理学療法士7名、看護師1名、助手スタッフ3名で協力しながら活動しています。

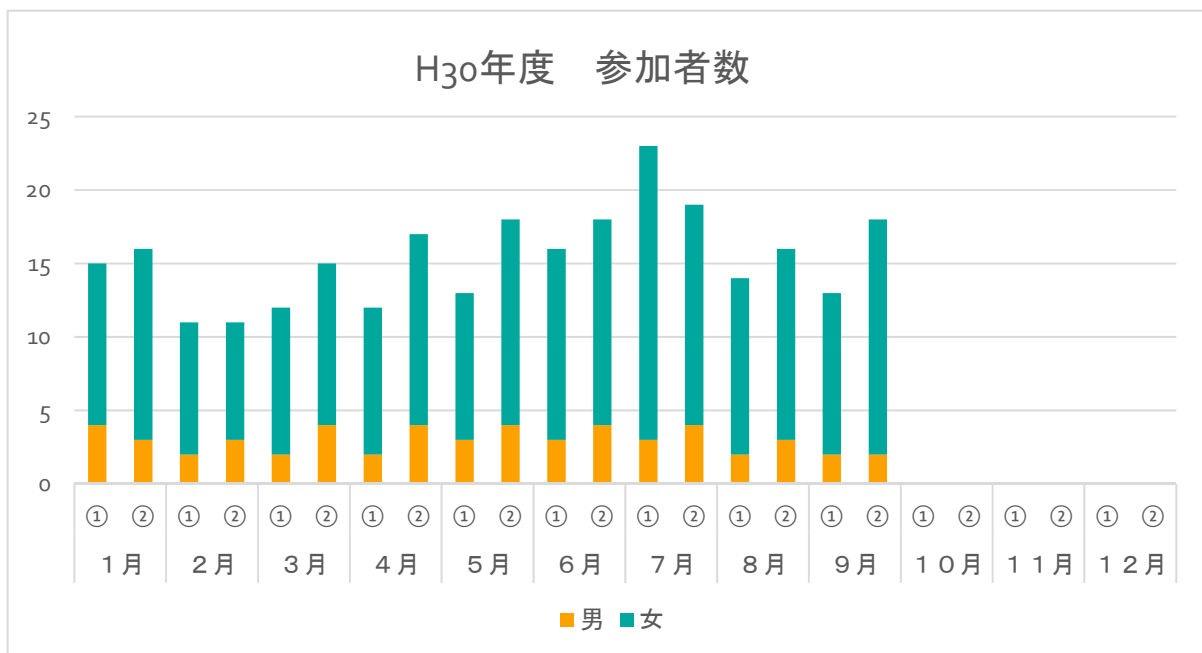
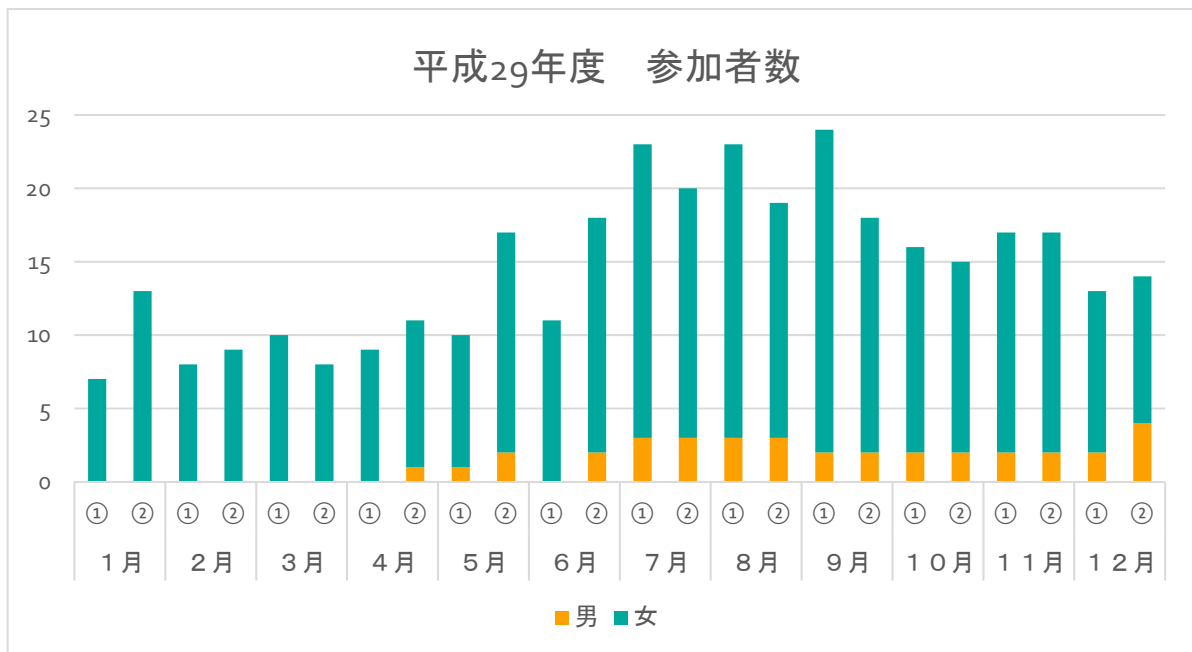
参加者としては、腰部疾患や腰部術後の方、変形性膝・股関節症、肩関節疾患の方が中心に来られています。最近では、知人から紹介された院外の方もちらほらとお見受けし、少しずつではありますが“霧島整形プール教室”が知って頂けてきていることを感じる場面があります。

活動内容としては、プール教室実施前でのバイタル・状態チェックを行い入室。全員でのストレッチ実施の後、約1時間20分程度の運動を行っています。水中運動の内容は水圧を抵抗にした歩行訓練やバランストレーニング、ボールやヌードル等の道具を用いた抵抗運動、浮力を活かしたリラクセーションを中心に当日の指導担当が工夫しながら運動構成を行っております。参加者の方からは“楽しい”、“終わった後は軽くなる”、“週1回とかもっとあってほしい”と嬉しいお言葉をいただいております。しかし、その反面として私達には課題があります。それは、水中運動の効果、運動方法の確立を行うことです。前年度は夏に“3ヶ月コース”として開催前後で身体機能測定を行いました。まだまだ結果として出せていない点が現状です。現在もバランス機能や柔軟性などに着目し、測定を行いながら水中運動しており、道は遠いですが目標に向かってプールスタッフで検討し合いながら“水中運動の効果”を考えていきたいと思っています。

これからも、プール始動時の目的であった“健康増進”“予防医学”を忘れず活動し続けていきたいと思っています。



【年間参加者数】



ヘルスケア教室

リハビリテーション部 竹下 直樹

ヘルスケア教室は、平成29年10月から平成30年9月までの毎月実施しております。

地域の皆様の健康増進・疾病障害予防に貢献するため、疾病に関する情報の提供や運動指導等を開院の半年後より月に一回程度、開催してきましたが、今年の2月で30回目となりました。



継続的に、一般的な悩みで多い腰痛や膝痛に関する最新情報を始め、時期的に流行する感染症などの興味深いもの項目や不安が多い項目を中心に実施しています。

昨年に引き続き、特に人気のある栄養や食事面に関して、参加者の多くは女性でした。今後も継続して提供していこうと考えています。本年度より当院にも作業療法士が入職し、作業療法士とはどのような職種であるのか？また、“日常での些細な工夫”で身の回りの動作が楽に実施してもらえる方法などを伝えていけるように取り組んできました。

今後も内容をグレードアップしながら新しい視点に基づいたテーマなども検討し、皆様に興味を持っていただきより満足いただけるような場としていきたいと考えております。

【第26回】 1人で出来る水中運動 ～ドイツから学ぼう～

平成29年10月26日（土）

- ・ 水中運動の効果
 - ・ 水中運動方法の実際
- 理学療法士 下村 珠美, 田河 久苗, 瀬戸口 恵莉

【第27回】 インフルエンザについて

平成29年11月25日（土）

- ・ 予防と対策
- 看護師 池之上 夕佳里

【第28回】 腰痛の改善と予防

平成29年12月16日（土）

- ・ 腰痛の基礎知識 最新版
 - ・ 痛みの原因に合わせた運動方法
- 理学療法士 宮崎 雅司
理学療法士 藤川 寿史

【第29回】 股関節のいたみについて

平成30年1月27日（土）

- ・ 股関節について知ろう ～基礎編～
 - ・ 股関節の痛みを予防しよう ～実践編～
- 理学療法士 増田 誠
理学療法士 平島 典尚

【第30回】 膝関節痛の原因を知ろう

平成30年2月17日（土）

- ・ 膝関節についての知識を深めよう ～基礎編～
 - ・ 予防と家で出来る運動療法 ～実践編～
- 理学療法士 水口 寛之
理学療法士 下村 珠美

【第31回】 肩の痛みと予防について

平成30年3月24日（土）

- ・ 肩関節の基礎知識
 - ・ 肩関節周囲のホームエクササイズ
- 理学療法士 松野 竜工
理学療法士 竹下 直樹

【第32回】 痛みのメカニズムと運動療法

平成30年4月28日（土）

- ・ 痛みのメカニズム 鹿児島大学医学部 理学療法学教授 榊間 春利
- ・ 運動療法の影響・効果 鹿児島大学大学院 医学療法士 中西 和毅

【第33回】 エンジョイ！ウォーキング！ ～自分にあったウォーキングを知ろう～

平成30年5月26日（土）

- ・ 歩行に必要な身体機能について 理学療法士 上田 晃希
- ・ 歩行につながる運動の実践 理学療法士 藤川 寿史

【第34回】 膝の痛みと治療について

平成30年6月30日（土）

- ・ 膝の疾患と治療法 医師 村角 恭一
- ・ 膝の痛みにも有効な運動について 理学療法士 善福 大輔

【第35回】 知って便利！！ 日常生活でのちょっとした工夫とアイデア

平成30年7月28日（土）

作業療法士 隈元 美紀

【第36回】 骨粗鬆症に効果的な食事について

平成30年8月25日（土）

管理栄養士 石原 幸代

【第37回】 超音波検査について

平成30年9月29日（土）

放射線技師 嘉手苺 寿林



霧島どんサポートの会

リハビリテーション部 下村 珠美

本年度の4月より院外活動の一環として、霧島市で活動している『霧島どんサポートの会』に、当院の理学療法士の田河と下村の2名が参加させて頂いております。『霧島どんサポートの会』は平成28年度より霧島市で地域介護予防支援活動事業として理学療法士・作業療法士が保健師の方や地域支援の方と一緒に運動教室や講演を通して予防活動を行っているものです。

私たちは、その活動中で『骨盤底筋運動』の教室を中心に依頼を受け参加しており、その他には“転ばん体操”や“貯筋運動”、“体力測定会”といった活動にも参加させて頂いております。各地域の方より依頼があった内容を、月に約3・4回程度『霧島どんサポートの会』のメンバーで実施しております。私が参加した教室では、地域公民館にて、地区の方々が10～20名程度来られ、運動の大切さや方法の説明を行い、一緒に運動を行っていました。参加された方々は、ご自身の脚で来られる方々が多く、活気と元気が伝わってきます。地域の会長さんや支援の方々が中心となり、定期的に地区内で集会も実施しており、活動範囲の維持や拡大、互いの生活や体の状態を確認し合うなど、ご自身達で協力し合い、予防に努めている姿を知ることが出来ました。私たちは、普段院内での治療やリハビリがほとんどです。病院内で来院された方の体の状態やお話を聞くことが今までは普通であり、その中での出来ることを行ってきました。しかし、実際の地域の場に行かせていただくことで、現場の生の声を聴く機会が得られ“現在の自分、今後の自分自身、何が出来ることなのか？”を考えるようになりました。まだ、参加回数としては少ないため、今後も院外活動にも参加させていただき、霧島市地区の方々に少しでも貢献出来るように活動のお手伝いをしていきたいと思っております。

骨盤底筋運動教室時のアンケート内容

配布12名

回収 9

1. 骨盤底筋について内容は分かりやすかったですか？	<ul style="list-style-type: none"> ・とても分かりやすかった 7名 ・まあまあ分かりやすかった 2名 ・分かりにくかった 0名
2. 運動内容は分かりやすかったですか？	<ul style="list-style-type: none"> ・とても分かりやすかった 8名 ・まあまあ分かりやすかった 1名 ・分かりにくかった 0名
3. その他	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もインナーマッスルの鍛え方について知りたい ・骨盤底筋の体操始めます。腰が弱くなったなと思っていましたので、よかったです ・楽しいひと時でした。わかりやすく、真似できて楽しかった ・進行状態（時間含む）良いです

活動写真



スポーツ教室 P&C 投球フォーム指導コース

リハビリテーション部 竹下 康文

我々は、霧島市のスポーツ障害「0」を目指して結集した集団です。これまで数回にわたりスポーツ障害への意識向上と予防への啓蒙を行ってきましたが、今年の2月より霧島市の中学生を対象とした投球指導コースを開設いたしました。

投球動作は全身を使うため肩の障害でも結果であることが多く、足首の不安定さが主たる原因であることもあり、機能不全にオーバユースと不良フォームが重なり、肩肘障害を引き起こすことが知られています。昨今障害予防の観点から投球を制限する声が高まっていますが、私たちはまず機能的な観点からフォームと比較し、投球障害の予防に取り組んできました。

対象は中高生、6チームを4か月に1度開催しました。フォームを分析し、機能評価と超音波エコーを点数化し、個々にあった指導を提供してきました。4か月後も同評価を用いて変化量を探り、変化点と問題点を抽出し、指導を更新してきました。まず障害予防の観点では、とにかく監督や保護者への啓蒙でした。投球フォームの分解、機能面のかかわり、年齢別の身体的特徴、競技特性、練習内容、テーパリング等を伝えるまで説明し、共有することができました。質問も多く、細かく、より実践的で指導意欲を感じることができました。本コースの特徴として、個別性が挙げられます。大規模な野球検診を行っているところは、年に1回数百人規模で行われていますが、我々は継続性に着目し、個別に評価しかつチーム全体を招集し、年3回実施するという方針で意識の改革に努めてきました。リピート率も高く、変化から選手や指導者の意識の変化を感じることができたため、初年度としてはまず目標達成したと考えております。

来年は、今年の反省を踏まえてBaseball Book 第二版を出版します。選手たちの変化と満足度の向上、チームの勝利および障害の予防につながるよう再検討はかり、我々の活動を世の中に発信できればと考えております。

本の制作および活動に参加してくれた同志に感謝の意を表したいと思います。継続は力となり、軌跡は形を作る。一步ずつ進んでいきましょう。



霧島スポーツまつり2018

リハビリテーション部 善福 大輔

現在、リハビリテーション部内で活動している『オフィシャルトレーナーズクラブ』という年間を通して行っているトレーナー育成の勉強会の実地講習の一環として、平成30年10月8日に開催された『霧島スポーツまつり2018』に参加しました。霧島スポーツまつりとは、霧島市の様々なスポーツ競技団体が、スポーツへの関心を高めてもらうための参加型イベントで、様々な年代の方が参加されるということで、当院からは、スポーツ競技者、保護者に向けて、『RICE 処置～正しい捻挫・打撲や肉離れの対処法～』『肩こり改善方法』『腰痛改善方法』の指導を行いました。病態の説明や簡単な状態のチェックができるようなパンフレットを作成し、自宅に帰っても行えるような内容にしました。



当日は、台風の心配もありましたが、台風一過で天気も良く、絶好のスポーツ日和になりました。AM9:00～PM3:00までの時間でしたが、終了時刻まで多くの方に来ていただきました。小学生から50歳代の幅広い層の方がいらっしやって、親子連れでの参加の方も多く見られました。全体で40名近くの方の参加があり、その中でも、2つ3つと興味を持っていただき、体験していただきました。

私の個人的な感想としましては、スタッフの対応を見ている中で、用意されていたパンフレットの中だけの説明ではなく、それ以上に各々の知識を使って、ひとりひとりの方に時間をかけて、たくさんの事を伝えていました。さすが職人気質、目の前の人に全力を注いで指導する姿を見て、とても感動しました。日頃から培ったものが生かされていた瞬間であると感じました。また、来場者の方やスポーツ協会の方からも多くの感謝の言葉、温かい言葉をかけていただき、とてもありがたかったです。

今年は、初めての参加だったこともあり、試行錯誤しながらの参加でしたが、今回の良かった点、反省すべき点をしっかりと来年に生かして、今年以上のもので来年もまた参加して位と考えております。

院長を始め、リハビリスタッフの協力のもと無事に終了したことを感謝致します。ありがとうございました。



英会話教室

Brian Pedersen

To Kirishima Seikei Geka,

Hello everyone,

The English language has now become the medium through which we conduct diplomacy, international relations, entertainment and of course medical care. The English language may not be classically beautiful but it is increasingly vital for anyone who wishes to expand their world in ways their native language cannot.

Dr. Kousei Ijiri recognized these facts many years ago and made great efforts to broaden his world and make himself a member of the international community through his mastery of spoken and written English. His medical research went hand in hand with growing confidence in English and many years ago I was able in some small way to assist him in his journey. This path has taken him to Utah in the USA, many countries besides, and continues to this day. Recognizing the importance of the English language he has encouraged younger staff to get on board with English learning and has provided the opportunity to start their own journey.

Most weeks it is my pleasure to head out to Kirishima city and conduct a class with some of the staff at Kirishima Seikei Gekka. The students always seem keen to push themselves and do their best in English. Gradually the average level of the students has gone up and they are taking on more and more challenging tasks.

I am looking forward to guiding them as they continue to progress in written and spoken English.

Regards,



院内ギャラリー

リハビリテーション部部长 宮崎 雅司

昨年よりご協力頂いております「きりしま写楽」の皆様の写真を3か月に1回季節に合わせた写真を掲示して頂いております。

毎年、毎回のことですが、素晴らしい写真ばかりで思わず足を止めて見入ってしまう力作ばかりです。霧島連山、夏祭り、お祭り、田植え、花火、夜景、霧島の景色、人物写真、様々な写真があり普段の生活の瞬間がこんなにも美しいのかと感動してしまいます。

写真家の腕もあるのですが、普段見ている景色への興味がわいてきます。

霧島は本当に自然豊かな地域で、空、田んぼ、川、山、海、すべてが同じことはなく、日々日常でも毎日変化があり改めて素晴らしい自然に囲まれていることに気付かされました。

増築した病院にも写真のギャラリーを増やしたいと思います。今後とも皆様の「きりしま写楽」の皆様、写真クラブ「みやま」の皆様の力を借りながら、患者さんのオアシス、息抜きのお場を作れたらと考えております。

最後に、実は展示してあります写真は購入できます。是非、皆様お気に入りの写真を一枚購入されませんか？お声かけお待ちしております！



実習生受け入れ報告

リハビリテーション部部长 宮崎 雅司

平成 30 年理学療法士実習生受け入れ実績

・長期実習

第一リハビリテーション専門学校	1 名	平成 30 年 4 月 26 日～6 月 30 日
		学生担当：藤川 PT
鹿児島医療技術専門学校	1 名	平成 30 年 8 月 6 日～10 月 12 日
		学生担当：田河 PT

・短期実習

○評価実習

鹿児島大学医学部保健学科	2 名	平成 30 年 4 月 9 日～4 月 21 日
		学生担当：木村 PT 藤崎 PT

○検査測定実習

第一リハビリテーション専門学校	2 名	平成 30 年 8 月 7 日～8 月 9 日
		学生担当：下村 PT

今年は、長期実習 2 名、短期実習 4 名を受け入れました。ここ数年、リハビリテーションの臨床実習を取り巻く環境は変化してきています。臨床実習指導により学生が実習中に自殺をするといったショッキングなことが日本各地で起きており、その改善が国会で討議されました。その原因として、各養成校の臨床実習に対する体制の違いや臨床実習指導者の公的な指導講習会の義務がないことが指摘されています。今後、臨床実習の受け入れに対し、何かしら当院でも現状と異なる対応が今後必要となるかもしれません。安心安全に学生を受け入れるよう、今後情報を注視し備えていきたいと思っています。

さて当院では、学生実習において見学を通じた知識の共有と監視下での技術伝達を通じ臨床の現場を知ってもらうよう指導しております。昨年も書かせて頂きましたが、実際の臨床における技術や知識もさることながら、実習を通じ患者さんの抱える問題に寄り添い解決するため学び、治療を実践することで、患者さんより感謝されることに仕事のやりがいを感じてほしいと思います。その中で、医療人としての自覚と責任、学び探究することの楽しさ、理学療法士としてのやりがいを感じこの仕事に就くことへ心から喜びを持ってほしいと思います。

ここ 2、3 年は臨床実習に来てくれた学生が就職してくれています。そのことは関わってくれた当院のスタッフの情熱と指導の賜物であったと確信しています。

日々の激務の中、臨床・研究・教育・社会貢献をしながらも情熱を失わず実習生を指導してくれたスタッフに心から感謝申し上げます。

潮 友 会

リハビリテーション部 松野 竜工

<今年の活動>

2月	志布志沖
3月	山川港、錦江湾
4月	錦江湾
6月	トカラ列島
7月	山川港

今年も潮友会は一年間を通し、さらに活発な活動をしてきました。年々、行動範囲は徐々に広がりとつあるようです。

私は、今年の夏から参加させて頂いており、初めて行ったのが、6月に2泊3日で行ったトカラ遠征でした。今まで乗ったこともない大きい船に乗り、いざ東シナ海へ。釣り場について辺りをみれば、広大な海に囲まれ、大自然に対し、戦う準備完了。普段の食卓に出てくるような大きさのアジを餌にし、海底付近で泳がせ大物を狙います。船に上がってくるのは、実際にみたこともないサイズのカンパチです。驚愕でした。こんな釣りを体験したこともない私にとって、感動の2泊3日でした。

また、その週末は台風が日本列島に接近していたにもかかわらず、そんなのお構いなしに海上の戦いへと向かう先輩方の勇姿に心打たれたのを思い出します・・・

そんな潮友会では、今年はまだ誰ひとり超大型魚には出会っておりません。今年は残り何度海に出られるか分かりませんが、超大型魚との出会いはあるのでしょうか？

最終的に、太公望は誰が挽ぎ取るのでしょうか？

・・・乞うご期待。



トレーナー活動報告 ―国分中央高校野球部―

リハビリテーション部 善福 大輔
田丸 智章

【大会成績】

秋の九州地区高校野球大会鹿児島予選	3 回戦敗退
春の九州地区高校野球大会鹿児島予選	ベスト 4
NHK 旗鹿児島県選抜高校野球大会	1 回戦敗退
全国高校野球選手権鹿児島大会	3 回戦敗退



【活動報告】

今年度は、田丸・善福・非常勤の白元に加え、水口の4名を中心に活動しました。平日の練習後にケア・コンディショニングを行い、さらに、投手陣に向けてのウエイトトレーニングメニューの作成等、ケアやコンディショニングのみでなく、今年は昨年以上に介入を行えたと感じています。春の九州地区高校野球大会鹿児島予選、NHK 旗鹿児島県選抜高校野球大会、全国高校野球選手権鹿児島大会においては、大会への帯同をさせていただきました。上記にあるように春の大会では、ベスト4まで進むことが出来ました。しかしながら、NHK 旗以降は、なかなか成績が振るわず、目標である甲子園出場はなりませんでした。大会を重ねる事にチームに色々な課題も見えてきた半面、トレーナー陣の力不足、課題も浮かび上がってきました。新チームでは選手、トレーナー陣も課題を克服し、しっかりとバックアップできるように、メンバーで取り組んでいくようにしていきます。

まだ、霧島地区のみ甲子園出場校が出ていないのが現状です。選手とともに、甲子園へ出場できるようにしっかりと努力していきたいです。

最後に、トレーナー活動に関して、快く参加させてくださり、バックアップして頂いた院長先生をはじめ、スタッフの皆様には感謝いたします。

理学療法士 善福 大輔



今年度、国分中央高校野球部のトレーナー活動として県大会への帯同、メディカルチェック、練習時のコンディショニング等の活動をさせて頂きました。投手陣を中心にケアを行ってきましたが、肩や肘に痛みを訴えることもあり、練習量の把握や試合への調整というものが非常に困難なことが多く、改めてトレーナー活動の難しさを痛感しました。1年を通して感じた事は、障害が発生する場合、中学生から機能障害をかかえている選手が多いことから、入学当時から積極的なケアを行う必要があると感じました。また、現場から求められるものとして、障害予防はもちろんですが、競技力向上という面でも今後必要になるのではないかと感じました。今回の経験を活かし、知識を深め、質の高いトレーナー活動を行えるよう日々努力していきたいと思います。

最後に、トレーナー活動に関して、快く参加させてくださり、バックアップして頂いた院長先生をはじめ、スタッフの皆様に感謝いたします。

理学療法士 田丸 智章



トレーナー活動報告 —ボート競技—

リハビリテーション部 橘木 康文

リハビリテーション部 藤崎 友輝

【はじめに】

当院では理学療法士2名がトレーナー活動として、鹿児島県ボート競技のサポートを行っている。今年は大会帯同や競技選手らのパフォーマンスチェックを実施したほか、全国大会で銅メダルを獲得した鹿屋工業高校ボート部の表敬訪問、祝勝会が当院にて行われ、昨年を上回る盛り上がりを見せた。平成30年度の活動内容について報告する。



【平成30年度活動内容】

- ・5月～ 第50回鹿児島県高等学校ボート競技大会 帯同
- ・7月～ 第38回九州ブロック大会 帯同
- ・8月～ 第66回全日本高等学校選手権競漕大会 帯同
- ・9月～ 第72回県民体育大会 帯同
- ・10月～ 第73回国民体育大会（福井国体） 帯同
- ・他、定期的なパフォーマンスチェックの実施
日々の練習サポート



【仕事内容】

○大会帯同

- ・身体機能のコンディショニング
- ・栄養、健康管理（食事内容確認、捕食準備、バイタルチェック、睡眠状態確認など）

○練習

- ・身体機能のコンディショニング
- ・運動指導
- ・トレーニングメニューの考案
- ・パフォーマンスチェック



インターハイ「2018 彩る感動 東海総体」帯同

リハビリテーション部 藤崎 友輝

日時：7月28日～8月2日

場所：愛知県 愛知池漕艇場

出場選手：少年男子8名 女子8名

日程：7月28日	公式練習
7月29日	公式練習、開会式
7月30日	予選
7月31日	敗者復活戦
8月1日	準々決勝
8月2日	準決勝、決勝



・感想

今年のインターハイは愛知県の愛知池にて競技が行われた。台風の影響により公式練習2日間が中止となったが、大きな被害はなく大会は日程通りのスケジュールで行われた。会場となった東郷町は「水と緑とボートの町」でありボート競技が盛んに行われている。開会式では地元高校生が中心となり吹奏楽部の演奏やビデオの放映など賑やかな開会式となった。



競技が行われた愛知池は直線のコースに沿ってアスファルトが続いており、水上・陸ともに広く、風も穏やかな整った環境であった。今年の夏は「災害レベル」と表現されるほどの暑さである。大会期間中は愛知池の気温が38度程あり猛暑の中での過酷なレースとなった。会場に着いた途端に猛暑が選手らの体力を奪い疲労させていく。今回の帯同において2つ重点的に行ったことがある。1つ目は熱中症対策であり、選手一人一人にアイシングバックを持たせた。水分補給・捕食は常に促しレース直後は水浴びをさせ、その後はアイシングを徹底的に行った。2つ目は長期間の大会において疲労を蓄積させないことである。食事内容、睡眠時間・睡眠の質は常にチェックを行った。

熱中症、疲労対策の結果として会場では体調不良を訴える選手はいなかったものの、一人の選手が宿舎に戻り夜間時に熱発した。熱疲労による症状が疑われ対応し、翌日には症状が改善

したが、体調が万全ではないことからレースに参加することはできず悔しい思いをした。

レース結果として鹿児島県は全選手が準々決勝敗退となった。周囲から活躍を期待され、私自身も上位につくことを確信していた鹿屋工業の選手らも準々決勝敗退となった。今回の3年生は私がトレーナー活動を開始した際の1年生であり関わった時間も長い。特別な思い出もあり何とか勝たせてあげたかった。



[大会結果]

男子シングルスカル・女子シングルスカル 予選敗退

男子ダブルスカル・女子舵手付クオドルプル・男子舵手付クオドルプル 準々決勝敗退

女子ダブルスカル 準々決勝棄権

・今後について

今回は2度目のインターハイ帯同であり、昨年帯同時の経験を生かし質の高いサポートができたと思う。私自身成長していることを実感でき内容の濃い活動となった。しかし競技結果としては満足できる結果ではなかった。声掛けのタイミングやウォーミングアップ時間の調整などまだまだ課題も多い。今後も現場での経験を積み重ね、選手らとともに成長し来年はさらに質の高いトレーナーとしてのサポートができるよう努めていきたい。

第73回国民体育大会ボート競技帯同報告「福井しあわせ元気国体」

リハビリテーション部 橋木 康文

ボート競技は、attention go の号令で漕手は進行方向に対して背中を向けてオールを漕ぎ、ボート先端がゴールラインを通過した順序で勝敗を決める競技です。風・雨・波など気象状況によって大きく左右されるため、タイムではなく各組の着順によってレースが行われます。距離は1000mのコースで、4つの種目を競います。5人、2人、1人乗りがあり、18歳までの少年とそれ以上の成年に編成されています。実施会場は、三方五湖で知られる福井県立久々子湖漕艇所。福井県は湖も多く存在し、ボートの盛んな街で、美浜町には、関西電力美浜という社会人チームもあり、県を挙げて力を入れている競技の一つです。漁業の盛んな街で海産物と梅干のおいしい町でした。鹿児島県は、7月に行われた九州ブロックにて、少年部門の男・女1人乗り、男子2人乗り、5人乗り、成年部門から男・女2人乗りが出場権を獲得しました。

今年は大会期間中に台風に見舞われました。会場の状況も悪くともに練習できないうえに、日程縮小と気の抜けない日々の連続でした。私の役割は、環境や体調および身体異常や疲労を評価し、食事や練習内容および強度の見当、身体的なリカバリーなどのコンディショニングが任されている仕事であります。選手たちの身体は、連戦に耐え切れず日々変化し疲労や痛みを訴えてきます。勝ち上がる選手さえも、試合後疲労と腰痛で立ち上がれない選手もいました。また漁師町の民宿に連泊していたため、出てくる食事が魚中心であり、かつ買い物をする場所もなかったため宿主と内容を相談したり、捕食を入れたりと苦慮した点がありました。全日程を通して体調を崩す選手もなく、無事に寄港できたことは大変安堵できる点であり、かつ成年女子ダブルスカルの健闘により、3位という功績を残せたことも喜ばしい点となりました。2位とはわずか0.3秒差。鹿児島国体に向けてのいい課題と捉え、勢いを落とすことなく、盛り上げていきたいと考えております。

三年間通院してくれた鹿屋工業高校竹永選手は、5人乗りにて準決勝敗退でしたが、松葉杖で登校し来た時の事、思うように膝が動かず苦しんできた事、全国大会で3位入賞した事、そして負けてしまった結果には、見えないそれぞれのドラマを感じました。トレーナーは、選手を支え、指導者をサポートする。時には親のように怒り、時には友達のように戯れる。これまでの事を思い返すと寂しく悔しい気持ちもありますが、選手たちの変化を感じ、成長に携われたことに対して、私自身また一つ得るものがありました。

いつも私たちの活動にご理解いただき、賛同してくださっている方々に、この場をお借りして感謝いたします。ありがとうございました。



第54回 霧島国分夏祭り 総踊り

看護部 川西 広宣

今年で54回目となる霧島地区最大の祭り、霧島国分夏祭りに今年で4回目の参加をさせて頂きました。7月14日・15日の2日間に渡り開催されたお祭りで、14日は総踊り、15日は神輿が街を練り歩き霧島地区一体となった祭りとなっています。

当院では14日に開催された『霧島総踊り』という、プログラムに参加しました。

6月より練習日を業務終了後に設け、実行委員会を中心として練習を行っていました。業務終了後ということもあり参加人数が少ない日もありましたが、本番当日までには多くの職員が参加し練習することができました。昨年に続きアレンジした踊りの検討もしましたが、ここは原点回帰ということで『ハンヤ節』『おはら節』『おじゃんせ霧島』の基本の踊りで参加することとなりました。



当日は職員やその家族で 55 名の参加で踊り始めました。約 2 時間お酒を呑みながら踊り続ける為、初めのうちは元気だった職員も徐々に疲れが目立ち始め最後はへとへとに成りながら 2 時間踊り切りました。

当院の夏の恒例行事ともなりつつ踊りも初回参加時よりも仕上がりつつあります。また沿道からの声援や叱咤激励も多く当院が地域に認知されていることを改めて感じる事ができこれを機に更なる地域医療の為にさらに取り組んで行こうと思う機会となりました。



集合写真は丸山様に撮影いただきました。
毎年、写真撮影及び応援ありがとうございます。

学会・研修会参加

学会・研修会参加

リハビリテーション部部长 宮崎 雅司

来年早春予定の増築と病院化を控え、各部門学会・研修活動が活発になっています。

病院とクリニック、法人内でも役割が明確となり、より明確に専門性を追求できるようになると考えます。より各部門専門性を深め学術的な視点を失わず、日々の業務を取り組み、自己研鑽を重ねていけたらと思います。

研修・学会参加を常に推進して下さる、井尻理事長、各部門スタッフに研修、学会参加しましたスタッフを代表しまして、心より感謝申し上げます。

医師

○第 91 回日本整形外科学会

平成 30 年 5 月 18 日～21 日 神戸 神戸国際センター、他

参加者：井尻 幸成 村角 恭二

○第 47 回日本脊椎脊髄病学会

平成 30 年 4 月 18 日～4 月 20 日 神戸 神戸国際センター、他

参加者：井尻 幸成

○第 63 回 Spinal Cord Club

平成 30 年 7 月 6 日 東京 住友不動産飯田橋ビル 3 号館

参加者：井尻 幸成 田邊 史 市成 栄子

看護部

【学会・研修会参加】

○第 31 回日本自己血輸血学学術総会

第 20 回学会認定看護師自己血輸血試験

平成 30 年 3 月 7 日～9 日 大坂 大阪府赤十字血液センター 大阪中央公会堂

参加者：竹之内 エイ子

○第 47 回日本脊椎脊髄病学会

平成 30 年 4 月 18 日～4 月 20 日 神戸 神戸国際センター、他

参加者：川西 広宣

○第 86 回日本自己血輸血学会教育セミナー

平成 30 年 6 月 30 日 大分 大分県中小企業会館

参加者：竹之内 エイ子

放射線部

【学会発表】

○第 12 回九州放射線放射線医療技術学術大会

演題名「腰椎脊髓造影と MRI における造影欠損像の比較検討」

発表者：松永 大和

【学会参加】

○第 44 回日本整形外科スポーツ医学会学術集会 徳島

平成 30 年 2018 年 9 月 7 日～9 日

参加者：嘉手苺 寿林

【資格取得】

○救急撮影技師認定技師 認定

取得者：松永 大和

○医療情報技師 認定

取得者：嘉手苺 寿林

リハビリテーション部

【学会発表】

○第 31 回鹿児島県理学療法士学会学術集会

平成 30 年 3 月 18 日 鹿児島・姶良市 姶良市文化会館「加音ホール」

「当院のスポーツ領域における地域とのかかわりについて」(口述)

発表者：善福 大輔

「黄色靭帯内血腫により腰部脊柱管狭窄症を罹患した症例の経過と治療について」

発表者：平島 典尚

○第 17 回コ・メディカル形態機能学会

平成 30 年 9 月 1 日～2 日 佐賀 佐賀大学鍋島キャンパス

「運動は加齢による運動機能の低下や海馬グリア細胞の活性化を抑制する」

発表者：中西 和毅

***学会奨励賞受賞！**

「Draw-in と頭部挙上による、外腹斜筋、内腹斜筋、腹横筋の筋厚変化」

発表者：谷 明

***学会奨励賞受賞！**

○九州理学療法士・作業療法士合同学会 2018

平成 29 年 10 月 13 日～14 日 沖縄

「JOABPEQ を用いた腰部疾患に対する水中運動教室の効果」

発表者：竹下 直樹

「座位における脊柱保持の筋活動に 2way stretch が及ぼす影響」

発表者：藤川 寿史

「腰椎固定術前後の脊椎アライメントと重心動揺の関係性について」

発表者：松野 竜工

○第 6 回日本運動器理学療法学会学術集会

平成 30 年 12 月 15 日～16 日 福岡

「MRI を用いた L4/5 腰椎すべり症患者のすべりの程度と椎間関節水腫に関する研究」

発表者：上田 晃希

「高校男子ボート競技選手に対する競技レベルと陸上におけるパフォーマンスチェックの関係」

発表者：藤崎 友輝

【学会参加】

○第 47 回日本脊椎脊髄病学会

平成 30 年 4 月 13 日～15 日 神戸 神戸国際会議場・ポートピアホテル

参加者：上田 晃希 松野 竜工

○第 44 回日本整形外科スポーツ医学会学術集会 徳島

平成 30 年 2018 年 9 月 7 日～9 日

参加者：橘木 康文 田丸 智章

第44回 日本整形外科スポーツ医学会学術集会

理学療法士 田丸 智章

第44回日本整形外科スポーツ医学会学術集会に参加させて頂きました。今回、「情熱と覚悟～100%を超える復帰」というテーマで、徳島県徳島市にありますアスティとくしまにて開催されました。テーマに基づき、近年の低侵襲内視鏡の進歩に加え、コンディショニングやリハビリテーションの発展等の発表が多く散見され、演題総数は587題で過去の最高記録をはるかに更新する演題数となり、多くの方が学会に参加されておりました。

特別講演では、スポーツ医学におけるモーターコントロールの重要性というテーマに、スポーツに携わる各分野での方々が同時に講演されていることがとても印象的でした。スポーツの中ではさまざまな複雑な身体挙動が求められるなか、各筋・関節の機能不全に対しての治療から動作不良に対しての治療が重要との内容でした。100%を超える復帰を目指す以上、患部の治療はもちろんのこと、障害発生の原因を追究し、動きのなかで正しい姿勢を身に付けることが重要だと感じました。

徳島県は野球検診の歴史が古く、30年以上も前から実施されているということもあり、野球に関する演題が多く散見されました。演題では、野球検診を縦断的に実施していくための工夫や検診内容に関するもの、競技特性についての研究が多くありました。私自身、臨床で、障害の発生原因を特定することがとても難しいことがあり、障害の背景には様々な因子があることを痛感しました。野球検診において、障害の予防は必要不可欠な目標ですが、現場から求められるものとは、競技力の向上も重要なものと改めて考えさせられました。当院で行われている投球教室やトレーナー活動、また日々の臨床において100%を超える復帰を目指すために、身体的要因やその選手を囲む他の要因を十分考慮して介入にできるようにしたいと思います。

今回の学会を通じて、まだまだスポーツ疾患に関わる機会は多くありませんが、少し視野が広がったと感じます。今後、臨床や地域活動に反映できるよう日々努力していきたいと思えます。このような機会を与えて頂き、先生方をはじめスタッフの皆さまありがとうございました。

理学療法士 橘木 康文

思い返せば一年前、本学会に初めて参加し、レベルの高さに衝撃を受けたことを思い出しました。悔しさを胸に岐路につき、考えたことを早速実践に移しました。中学生野球部を対象にBaseball Bookを作成し、投球フォームと超音波検診および機能評価を行いました。今年は甲子園100周年記念大会であり、偶然か必然か野球検診発祥の地でもある徳島で学会が開催されました。内容は肩肘を中心とした投球障害および脊柱下肢にわたるスポーツ障害でした。最新の治療法や研究は興味深いものばかりで関心が多かった一方で、自分たちの考え方も大きく変化していることに気づくことが出来ました。また英語でのオーラルセッションでは、全文理解に至らなかったが、外国Drの最新見解や日本人医師との情報共有を聞く中で、自分たちが行っているリハビリテーションがかけ離れたものではなく、少しずつ近づけていたことを知り少し安堵することもできました。これからは追い越すことを目標に世界に目を向け、日々の考え方を整理しつつ知見を深めていきたいと考えるようになってきました。

霧島地区のスポーツ障害を「0」にすることは、小さいことかもしれませんが、地域性を大切にしながら我々の活動を世界に発信していけるよう邁進していきたいと思います。

考えの広がるきっかけを与えてくださり、ありがとうございました。

診療放射線技師 嘉手苺寿林

私は、診療放射線技師として当学会に参加させていただきました。内容としては、Dr による臨床面からの発表と療法士による発表がメインでした。一見診療放射線技師が参加する学会ではないように見えますが、いつも参加する学会や勉強会では聞けないような発表ばかりで、今後の診療放射線技師としての医療への携わり方をガラッと変えられた学会になりました。Dr の望む画像、療法士の望む画像がそれぞれあり、それぞれに最善の画像を考えながら撮影を行う。当たり前のことですが、忙しい業務の中ではなかなか難しいことです。一度初心に戻り診療放射線技師としての在り方を見直すことができた貴重な学会となりました。今後は、解剖や画像所見について一層知識を身に着けるとともに、撮影や読影の技術を身に着け、Dr による評価や療法士による評価に関しても学んでいきたいと思います。



九州理学療法士・作業療法士合同学会in沖縄

リハビリテーション部 松野 竜工

平成 30 年 10 月 12 日～13 日で、沖縄県の宜野湾市にある沖縄コンベンションセンターで行われた『九州理学療法士・作業療法士合同学会 in 沖縄』に参加しました。

私は、『腰椎固定術前後における脊椎アライメントと重心動揺の関係性について』というテーマでポスター発表を行いました。私にとっては初めての臨床研究、学会発表でしたが、理学療法士になり 2 年目という比較的早い時期に研究や学会発表を経験することは私の中で 1 つの目標であったので、その点は良かったと思っています。学会場では他の施設の方とディスカッションする中で自分自身が着目していなかった点や、アドバイス等頂き少しは視野が広がる機会になったのではないかと思います。

しかし今回の研究はまだ不十分な点が多く、他施設の方のポスターや発表を聴いて自分自身の力不足さ等様々なことを実感しました。また今回の学会発表で自分自身の今後の課題もみつけられました。脊椎脊髄疾患に対する手術療法及び保存的リハビリテーションを軸とする当院において、脊椎脊髄疾患に関する研究は必要であると考えています。今後も、普段の患者さんとの関わりの中で、さらに疑問や興味のある事を形にして、臨床研究や学会発表ができればと思います。

今回、学会発表を行うまでの過程で、沢山の先輩方の御協力も頂きながら形にすることが出来ました。この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。



今回、平成 30 年 10 月 13～14 日に沖縄コンベンションセンターで開催された九州理学療法士・作業療法士合同学会 2018 in 沖縄でポスター発表として参加させて頂きました。合同学会においては、今回が最後の年であり、九州全域から多くの理学療法士・作業療法士の方が参加されていました。

今回の学会のテーマは「リハビリテーションの分科と創造～40 年を温（たず）ねて、新しきを知る～」で開催され、口述発表が 160 演題、ポスター発表が 276 演題と多くの発表がありました。

私は、『JOABPEQ を用いた腰部疾患に対する水中運動教室の効果』というテーマで発表させて頂きました。平成 29 年 7 月～12 月にかけて、6 ヶ月間継続的に参加可能であった患者に対して、日本整形外科学会腰椎機能評価質問票（以下 JOABPEQ）及び水中運動前後の疼痛 Visual analog scale（以下 VAS）を聴取し、また、運動機能として長座体前屈、片脚立位、握力、Timed up & GO（以下 TUG）を初回時、3 ヶ月後、6 ヶ月後に測定。結果として、JOABPEQ における心理的障害において初回時と 6 ヶ月後に有意な相関が認められたこと、参加者全例において、VAS が経時的に減少したことが言えましたが、運動機能においては有意な相関は認められませんでした。今回の研究において、研究の対象として継続的に患者を確保する難しさを一番に感じました。また、先行文献等でも言われている水中運動の研究では、最低でも 1 週間に 1～2 回の水中運動にて研究されており、私たちのプール教室は月に 2 回と回数にも変化が認められなかったのではないかと考えています。

今回、発表での質疑応答においても、なぜ？その評価項目を挙げたのか、疼痛に関して指標が分かりにため（例：破局的思考）、別な評価項目でもっと深くみてみても面白いのではないかと等との意見を頂きました。今回は、他の施設等で積極的に行っているセラピストの方は見かけられませんでした。なかなか行う事の出来ない水中運動に関して、興味をもっている方が多く、今後も水中運動に関しての研究を継続的にを行い、報告していこうと感じました。

その他発表において、当院の入院患者に類似するような発表があり、腰部手術後の転院、退院時の JOABPEQ の変化では大きく変化はないものの、3 ヶ月後、6 ヶ月では退院した方の方が転院した方より優位の高得点であるとの報告があり、自宅復帰に伴い、日常生活動作やその他運動の機会が増え、機能的にも改善が認められたのではないかと感じました。当院でも検討していく必要があると思います。

今回、学会参加させて頂きありがとうございました。他の理学療法士、作業療法士の発表と聞き、臨床において患者に対する効果や方法を考え、研究に活かしていけるに関わっていこうと思います。



JOABPEQを用いた 腰部疾患に対する水中運動の効果

○竹下直樹¹⁾、下村珠美¹⁾、田河久苗¹⁾、田丸智章¹⁾、木村玲央¹⁾、藤川寿史¹⁾
 濱谷美奈²⁾、宮崎雅司²⁾、楠間春利²⁾、井尻幸成²⁾(MD)¹⁾

1)術徳会 霧島整形外科

2)鹿児島大学 医学部 保健学科 基礎理学療法学講座

【はじめに】

水中運動は、健康増進や転倒予防に効果があることが報告されている。運動器疾患においても水の特性を生かした水中運動の効果について多くの報告があり、当院では、平成28年1月より2回、水中運動教室を実施している。これまで当院における水中運動療法の取り組みや水中運動が重心動揺に及ぼす即時効果について報告してきた。今回、当院の水中運動教室を6ヶ月間継続してきた腰部疾患患者に対し、日本整形外科学会腰痛評価質問票(以下JOABPEQ)を用いて水中運動教室の長期効果の検討を行ったので報告する。



【対象】

腰部疾患による手術後あるいは発症後6ヶ月以上経過して平成29年7月から12月に当院で外来理学療法を行いながら水中運動教室に参加した17名

(男性:3名、女性:14名 平均年齢:67±9歳)

その内、

2回、6ヶ月間継続的に教室に参加可能であった7名
 (男性:1名、女性:6名 平均年齢:63±12歳)

○腰部疾患(対象人数):

腰部脊柱管狭窄症:6
 腰椎椎間板ヘルニア:4
 腰椎椎間板ヘルニア:3
 腰椎すべり症:3
 腰椎圧迫骨折:1

性別	年齢(代)	疾患名	Op+型
A 男	70	腰椎椎間板ヘルニア	L2-3 後方固定術
B 女	60	腰部脊柱管狭窄症	L2-S1 後方固定術
C 女	60	腰部脊柱管狭窄症	L4-5 後方固定術
D 女	50	腰椎椎間板ヘルニア/変形性膝関節症	—
E 女	80	TH12、L1圧迫骨折	—
F 女	50	腰椎椎間板ヘルニア/右肩関節周囲炎	—
G 女	50	腰椎椎間板ヘルニア/右肩関節周囲炎	—



【方法】

プール環境

市にある公共施設を利用

- ・水温:30~31℃
- ・室内温度:20~27℃
(季節による変化有)
- ・水深:1.05~1.2m
- ・大きさ:25m×2レーン

運動プログラム

休憩を入れながら90分程度

体幹筋の収縮を意識した運動を中心に実施

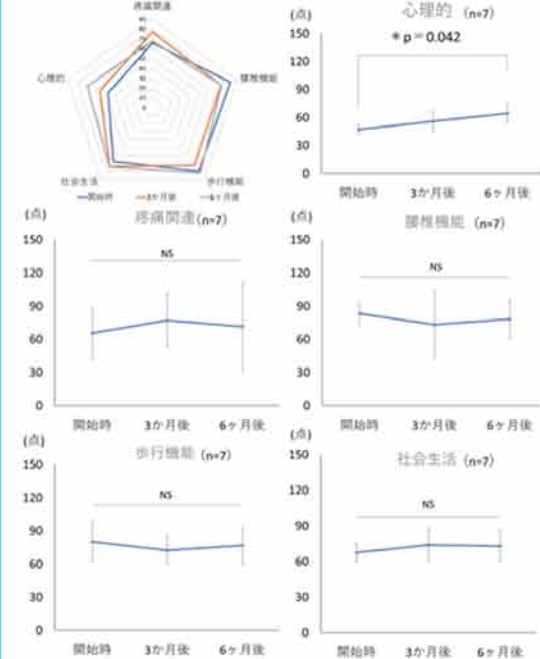


水中運動教室開始時に、JOABPEQ(疼痛関連、腰椎機能障害、歩行機能障害、社会生活障害、心理障害)の記載、水中運動前後のVisual analog scale(以下VAS)を聴取

- 握力:新体力テストに基づき、握力計(T-2177:トーエイライト株式会社)を使用し左右2回ずつ測定。利き手の平均値を代表値とした。
- 長座体前屈:新体力テストに基づき2回測定。最大値を代表値とした。
- 片脚立位:両手を腰に当て、左右いずれかの足を床から離れた瞬間から測定。「手が腰から離れる」、「支持足の位置がずれる」、「支持足以外の身体の一部が床に触れる」で測定を終了。測定の上限値を60秒とし、左右2回ずつ実施し、良い方の平均値を代表値とした。
- Timed up & GO(以下TUG):(社)日本理学療法士協会に基づき2回測定。早い方の値を代表値とした。

評価は、水中運動開始時、3ヶ月後、6ヶ月後に実施。統計学的検定には、SPSS Ver24を使用してFriedman検定を行い、その後Wilcoxon検定を用いて統計処理を実施し3群比較を行った。有意水準は5%とした。

【結果①】 JOABPEQ

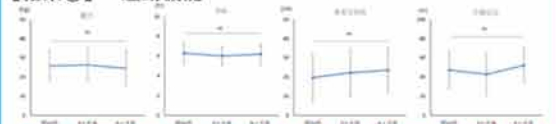


・JOABPEQの心理的障害において、開始時と比較して6ヶ月後に有意な改善が認められた(p=0.042)。
 ・疼痛関連障害、腰椎機能障害、歩行機能障害、社会生活障害には開始時と比較して3ヶ月後、6ヶ月後に大きな変化は認められなかった。

【結果②】 疼痛



【結果③】 運動機能



【考察】

・先行文献より、週1回の水中運動において初回時から感情の改善をもたらす継続するとの報告があり、心理的な変化において、腰部疾患を有する参加者においても同様の効果が得られたと考えられる。

・疼痛の評価において、

- ①VAS:水中運動開始前後の安静時痛
- ②JOABPEQ:1週間程度の日常生活上での運動時痛

・全例に疼痛(VAS)の軽減を認めたが、JOABPEQの疼痛関連障害には有意な変化は認められなかった。評価方法の違いによるものではないかと考える。

【倫理的配慮、説明と同意】

本研究は霧島整形外科倫理審査委員会の承認を得て実施した。(承認番号:00010)本報告に対しては、個人が特定できないようにデータの取り扱いに十分配慮した。対象者には十分な説明をした後に同意を得た。

「座位における脊柱保持の筋活動に 2way stretch が及ぼす影響」というタイトルで2年ぶりに九州学会にて発表を行いました。何度目かの学会発表ではありますが、やはり人に考えを伝えるのは難しいということを感じました。また、自分の考えも整理できていたつもりでしたが発表・質疑応答を通して、まだまだ不十分な点が多いことに気づくことができました。発表ではタイトルのつけ方から、ポスター構成、発表時の言葉遣い等、反省することばかりでした。発表後は座長をはじめ複数の方々からいろいろな意見をいただくことができ、発表した内容についての理解をより深められたと思います。今回の学会発表を通して感じたことや整理できたことを日頃の業務の中で確認しながら、継続したテーマで発表を続けていけるように取り組んでいきたいと思っています。



第31回鹿児島県理学療法士学会報告

リハビリテーション部 平島 典尚

始良市文化会館の加音ホールにて開催された第31回鹿児島県理学療法士学会に参加させていただきました。演題は『黄色靭帯内血腫により腰部脊柱管狭窄症を罹患した症例の経過と治療について』というタイトルでポスター発表を行いました。私にとってこれが初めての学会発表となりました。当日は非常に多くの理学療法士の先生方が出席されており、私の発表時にもたくさんの方々が来てくださいました。緊張もしましたが、発表も質疑応答も自分の意見・考えをしっかりと伝えることが出来たように思います。たくさんの方に協力して頂きながら数カ月にわたり努力した結果だと思えます。

また学会発表にむけて準備する中で研究の手順を学び、自身の知識不足を改めて認識することが出来ました。今回の症例報告に留まらずこれからも自分が疑問に思ったことに対し、突き詰めていく精神を持ち続け、自己研鑽に努めていきたいと感じました。

リハビリテーション部 善福 大輔

平成30年3月18日に始良市文化会館の加音ホールにて鹿児島県理学療法士学会が開催され、『当院のスポーツ領域における地域とのかかわりについて』という演題で発表させていただきました。参加人数は、会員が357名、その他学生等含め441名の参加者で、鹿児島県で年に1度行われる理学療法士協会が主催する学会で、今回は地元である始良ブロックで開催される学会でした。また、今回は口述発表ということで、私自身大勢の会員の前で発表するという貴重な経験をさせて頂きました。発表においては、初めての口述発表ということで、緊張しつつも私自身の伝えたいことがしっかりと話せたかと思います。

演題としては、『当院のスポーツ領域における地域とのかかわりについて』という内容で、当院のスポーツ分野での患者数、年齢やスポーツ競技、疾患といった様々な傾向を報告するとともに、当院で行っているスポーツ教室やトレーナー活動を伝えることが出来ました。これから2020年には東京オリンピックや同年に鹿児島では国体が開催され、スポーツが盛り上がっていく中でのこのような発表をさせて頂き、有意義なものとなったと感じました。今回の発表を通して、今後はスポーツ分野で行っている野球教室やトレーナー活動において、より専門的な報告を行えるように準備をしていきたいと思いました。

また、当院ではボートやサッカー、野球といった様々な競技で、トレーナーとして活動しているスタッフがいます。これからも地域のスポーツ選手が活躍できるように私たちもバックアップして、スポーツ領域においても地域貢献に繋げていけるように精進していきたいと思っています。



第47回日本脊椎脊髄病学会学術集会

リハビリテーション部 上田 晃希

今回、井尻院長、川西、松野、上田の4人で神戸まで足を運び、第47回日本脊椎脊髄病学会学術集会に参加させていただきました。学会テーマは『一念通天～延ばせ健康寿命』ということで、様々な脊椎脊髄病に関する研究や症例報告が討論されていました。

脊椎の基本的な解剖や全国で行われている最新の脊椎手術、脊椎疾患と画像解析などなど脊椎脊髄に関する講演、ポスター発表を肌で感じ、当院での術後リハビリでの注意点を再確認し、我々もさらなる研究活動を行っていかねばと感じました。

井尻院長はポスター発表の1セッションで座長をされている場面もありました。

今回、このような学会に参加する機会を下さり、スタッフの皆様に感謝いたします。

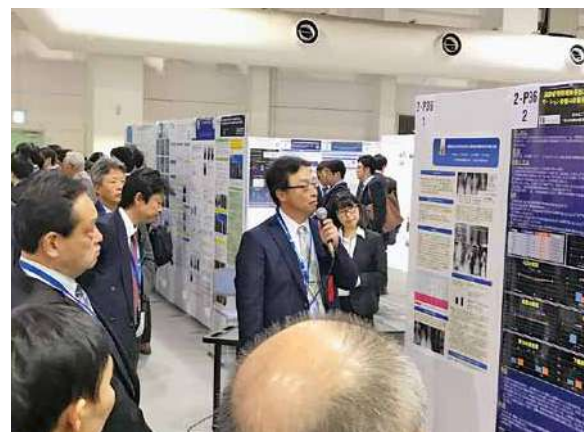
看護部 川西 広宣

平成30年4月12日から14日に神戸ポートピア・神戸国際会議場・神戸国際展示場で開催されました第47回日本脊椎脊髄病学会に井尻院長・理学療法士2名・看護師1名で参加してきました。

今回のテーマが『一念通天～延ばせ健康寿命～』というテーマで開催され、公募演題1526演題中1062演題を採択（69.6%）と多数の演題の中から私は脊椎手術で知っておくべき解剖学や当院でも行われている脊椎固定術に関する演題を中心に勉強をしてきました。

脊椎の解剖学では基本的な解剖から実際の手術時に必要な技術やリスクマネジメント等々術者でしか分かりえない苦勞を知ることができ、機械出し看護師として注意すべき点や術者が今何をされていて、特に注意が必要な場面や次に必要な機械の準備などの参考になりました。また、当院で行っている、脊椎固定は全国の病院でも行われており、鹿児島でも先進的な医療が当院で行われていることがこの学会に参加し実感しました。

今回学会に参加させていただき特に感じたのは医師が中心の学会で看護師の私では勉強不足な部分が多く更なる精進が必要と改めて感じました。手術をより安全かつ円滑にするためには更なる成長が必要だと考えます。その為には日々の勉強やそのほか学会への参加に積極的に取り組んで参りたいと思います。



第12回 九州放射線放射線医療技術学術大会

診療放射線部 松永 大和

昨年度、九州放射線放射線医療技術学術大会が開催され、発表してきました。

内容としては、腰椎 MRI と脊髓造影検査とでは体位の違いなどで狭窄率や見え方に違いがあるのかを検討しました。

結果としては、臥位による MRI 検査だけでは、L 5 / S レベルの病変を見落とす可能性があり、脊髓造影検査は有用な検査であると思いました。

反省点としては、脊柱管の評価法をもう少し細かく設定すればよかったかなと思いました。

また、n の値が少なかったのでもう少し余裕を持ちより多くの症例を検討すればよかったと思いました。また、MRI の A x i c a l 画像で検討しましたが、2 D M Y E L O でも評価が必要と思いました。

次回は、検討症例を増やし、余裕を持って研究したいなと思いました。

今後も探求心を忘れず業務に励みたいと思います。

第42回 日本超音波検査学会学術集会

診療放射線部 松永 大和

2017年6月17日から18日まで、福岡で開催されました日本超音波検査学会学術集会に参加させていただきました。

一般口演とポスター発表合わせて約300題でした。主に腹部や心臓のセクションが多く、整形領域は数えるほどでしたが、各々の考え方や捉え方など学ぶ点も多かったです。また、当院でも行っている下肢領域のセクションもあり、超音波の当て方や見かたなど、参考にしたい事ばかりでした。

このような貴重な体験をさせていただきありがとうございました。この貴重な体験を臨床の場で生かしていきたいと思っています。

メディア掲載

メディア掲載

医事課 神田 かおり

朝日新聞出版、2018年3月10日週間朝日MOOK 発行の「手術数でわかるいい病院ランキング2018」に当院が九州県内の首・腰部門ランキングで掲載されました。手術件数は患者さんが病院選択するなかで1つの参考になると思います。38床の急性期病院へ挑戦していくなかで、今後も地域に根ざしたより良い医療を提供できるようスタッフ一同、誠心誠意努めてまいります。

九州・沖縄		手術数								所在地 電話番号		常勤 医数	主な医師名	
順位	病院名	手術 数	頸椎			腰椎			ヘルニア					
			頸椎 症	後縦 靱帯 骨化 症	椎間 板 ヘルニア	神経 根 症	脊柱 管 狭窄 症	成人 脊 柱 変形						
1	総合せき損センター	479	70	27	10	20	339	13	115	福岡	飯塚市 0948-24-7500	15	○植田尊善	○前田 健
2	長崎労災病院	426	73	11	13	36	258	35	220	長崎	佐世保市 0956-49-2191	7	○小西宏昭	○馬場秀夫
3	うちのう整形外科	369	22	2	5	5	335	0	48	大分	大分市 097-545-0007	3	○内納正一	出口 力
4	大分整形外科病院	358	66	32	30	10	205	15	220	大分	大分市 097-552-5151	6	○大田秀樹	○井口洋平
5	熊本中央病院	326	64	12	17	2	187	44	69	熊本	熊本市南区 096-370-3111	4	○水瀧正也	
6	新小文字病院	311	114	18	11	1	167	0	83	福岡	北九州市門司区 093-391-1001	2	○高橋雄一	佐々田 晋
7	成尾整形外科病院	275	22	10	12	8	223	0	240	熊本	熊本市中央区 096-371-1188	3	○成尾政一郎	○矢渡健一
8	熊本労災病院	222	64	13	1	2	140	2	71	熊本	八代市 0965-33-4151	2	○池田天史	○川添泰弘
9	久留米大学病院	220	46	12	5	5	140	12	30	福岡	久留米市 0942-35-3311	4	○佐藤公昭	○横須賀公章
10	南風病院	198	31	12	3	2	150	0	41	鹿児島	鹿児島市 099-226-9111	2	○川内義久	富村奈津子
11	明野中央病院	188	9	3	4	1	171	0	92	大分	大分市 097-558-3211	2	○中村英次郎	○吉岩豊三
12	豊見城中央病院	184	48	6	0	0	130	0	38	沖縄	豊見城市 098-850-3811	3	○伊佐真徳	○上原邦彦
13	霧島整形外科	171	24	10	3	6	114	14	36	鹿児島	霧島市 0995-73-8840	1	○井尻幸成	
14	佐田病院	169	11	4	6	5	143	0	81	福岡	福岡市中央区 092-781-6381	3	○藤原将巳	○齊田義和
15	宮崎大学病院	143	42	15	8	0	73	5	16	宮崎	宮崎市 0985-85-1510	6	○濱中秀昭	比嘉 聖
16	大浜第一病院	139	33	10	6	0	90	0	32	沖縄	那覇市 098-866-5171	—	—	—
17	おおみや整形外科	138	2	0	0	1	135	0	60	福岡	行橋市 0930-28-0038	1	○大宮克弘	
18	九州労災病院	134	34	5	1	2	92	0	45	福岡	北九州市小倉南区 093-471-1121	5	○加治浩三	○平塚徳彦
19	米盛病院	130	16	3	2	0	98	11	88	鹿児島	鹿児島市 099-230-0100	8	園田 勉	○谷口暢章
20	春陽会中央病院	124	19	2	5	2	90	6	64	鹿児島	肝付町 0994-65-1170	2	上園春仁	○稲留辰郎

首・腰手術部門 九州県内 13位、鹿児島県内 2位



編集後記

創立4周年を迎え、無事今年度の術徳兼備が発行できますことを嬉しく思うと同時に、当院の足跡を皆様にお伝えする役割を担えたことを大変光栄に存じます。

霧島整形外科は平成26年10月17日に開院し、皆様方のご支援ご協力のもと急性期病院へ成長いたします。より充実した環境・設備の中で、またさらにスタッフ一丸となり「地域密着型の高度な専門医療をご提供」できるよう、日々精進してまいります。

最後に術徳兼備の編集にあたり、ご多忙なあいまを繕い、原稿をお寄せいただきました皆様方、術徳兼備の作成に終始ご尽力いただいた方々に心より感謝申し上げます。



編集 リハビリテーション部 上田 晃希
医事課 嶺田みずほ

医療法人術徳会 霧島整形外科 術 徳 兼 備 (第4号)

平成30年12月21日

発行 医療法人術徳会 霧島整形外科

〒899-4341 鹿児島県霧島市国分野口東8-31

TEL 0995-73-8840 FAX 0995-73-8848

URL <http://kirishimaseikei.jp/>
